富山大学

地域連携型内科専門医研修プログラム

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』,
『研修カリキュラム項目表』,『研修手帳（疾患群項目表）』,
『技術・技能評価手帳』,『専攻医登録評価システム（J-OSLER）』は,
日本内科学会 Web サイトをご参照ください.

富山大学地域連携型内科専門医研修プログラム

目　次

1. プログラムの理念・使命・特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1−2
2. プログラムの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3−4
3. 専攻医の到達目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.4−6
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の修得・・・・・・・・・・・・ p.6−7
5. 学問的姿勢・・ p.7
6. 学術活動に関する研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.7
7. 医師に必要な倫理性，社会性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.8
8. 研修施設群による研修プログラムと地域医療での役割・・・・・・・ p.8
9. 研修コース・・ p.8−10
10. 専門医研修の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.11
11. 専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.11
12. 専攻医の就業環境（労働管理）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.12
13. 研修プログラムの改善方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.13
14. 修了判定・・ p.13
15. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと・・・・・・・・ p.13
16. 研修プログラムの施設群（連携施設、特別連携施設）・・・・・・・・ p.13
17. 専攻医の受け入れ数（募集専攻医数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.14−15
18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件・ p.15
19. 専門研修指導医・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.15
20. 専攻医登録評価システム（J−OSLER），マニュアル等・・・・・・・・・ p.15−16
21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.16
22.　専攻医の採用と修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.16−17
別表 1. 内科専門研修における「症例数」,「疾患群」,「病歴要約」の到達目標
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.18
別表 2. 連携施設・特別連携施設 一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.19
別表 3. 研修プログラム管理委員会 構成員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.20
別表 4. 基幹施設・連携施設概要（施設別）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.21−93

1. 富山大学地域連携型内科専門医研修プログラムの理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは，富山県唯一の特定機能病院である富山大学附属病院を基幹施設として，富山県を中心に近隣の医療圏も含めた医療を担う良質な内科医を育成することを目的とした内科専門研修プログラムです．このプログラムでは地域の医療を担う複数の連携施設および特別連携施設と連携し，地域医療への配慮、地域の実情に合わせた実践的な医療が行えるように計画され，高度な内科専門領域の診療と研究を担う可塑性のある内科専門医の育成を行います．

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設＋連携施設）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修 カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得します．内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得し、様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の育成を行います．

使命【整備基準 2】

1) 内科専門医は，①高い倫理観を持ち，②最新の標準的医療を実践し，③安全な医療を心がけ，④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営する使命があります．

2) 内科専門医は，疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて市民の健康に積極的に貢献する使命があります。

3) 内科専門医は，将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を推進する使命があります．

特性

1) 本研修プログラムは，富山県の 富山大学附属病院を基幹施設として，富山県全域ならび近隣医療圏も守備範囲とし，必要に応じた可塑性のある地域の実情に合わせた実践的な医療も行える内科専門医を育成します．研修期間は基幹施設と連携施設での期間を合わせて 3 年間です．

2) 本研修プログラムでは，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に診療を行い，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を重視します．

3) 本研修プログラムでは，地域に密着した医療を理解し修得するため、連携施設や特別連携施設などの地域における役割の異なる医療機関で一定の研修期間の研修を行います．内科専門医研修の中で地域医療にも貢献します．

4) 本研修プログラムは，研究機関でもある富山大学附属病院が基幹病院であるメリットを生かし，臨床研究への参加や臨床につながる基礎研究を理解できる研修を組み入れ，リサーチマインドを十分に持った内科専門医を育成します．

専門研修後の成果【整備基準 3】

富山大学地域連携型内科専門医研修終了後の成果は，内科医としての総合的な診療能力、プロフェッショナリズム、およびリサーチ マインドを持った高い能力の内科医師が育成され、富山県およびその周辺の医療圏の地域医療を支えるともに医学の進歩に貢献することです．内科専門医としての貢献の仕方として主に以下の4つ(①〜④)が上げられますが、それぞれの役割は重なり合い、状況に応じて可塑性のある診療を実践していくことです．

①地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し，内科慢性疾患に対する生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践する医師．

②内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な，地域での内科系救急医療を実践する医師．

③病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で，内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち，総合内科医療を実践する医師．

④総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で，総合内科（Generalist）の視点から，内科系 Subspecialist として診療を実践する医師．

2. 富山大学地域連携型内科専門医研修プログラムの概要【整備基準 13-16, 30】

1) 研修期間

内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた 3 年間の専門研修（専攻医研修）で育成されます．専門研修の 3 年間に，それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「研修カリキュラム」に示された内科専門医に求められる知識・技能の修得を目指します．修得するまでの最短期間3年間（基幹施設＋連携・特別連携施設）ですが，修得が不十分な場合は修得できるまで研修期間を1年単位で延長することができます。

2) 修得すべき事項

日本内科学会では内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています．主担当医として**「研修手帳（疾患群項目表）」**に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．また，**「内科研修カリキュラム項目表」**に示された**専門知識**【整備基準 4】と**「技術・技能評価手帳」**に示された**専門技能**【整備基準 5】を修得します．これらは，**日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）**への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を up to date に明示します．具体的な研修内容と評価方法は後の項目で示します．内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた 3 年間の専門研修（専攻医研修）で育成されます．

3) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって習得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～ ⑤参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します.代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に診療を担当し，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，症例提示を行うことによりプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を高めます．

③ 一般内科外来（初診を含む）あるいは Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週1回，通算で 6 カ月以上担当医として経験を積みます．

④ 基幹施設の災害・救命センターや連携施設の救急センターで内科領域の救急診療の経験を積みます．

⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます．

⑥ 必要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します．

4) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

(1)内科領域の救急対応，(2)最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，(3)標準的な医療安全や感染対策に関する事項，(4)医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項などについて，以下の方法で研鑽します．

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会・症例検討会への参加

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会への参加（基幹施設 2023年度実績 1回）
※内科専攻医は年に 2 回以上受講します.
③ CPC への参加（基幹施設 2023年度実績 3回）
④ 研修施設群合同カンファレンスへの参加（2026年度：年1 回開催予定）
⑤ JMECC 受講（基幹施設：2022年度2回開催 , 2023年度 2回開催 ）
内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します.
⑥ 内科系学術集会への参加（下記「学術活動に関する研修計画」参照）

5） 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，**知識に関する到達レベル**を A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，**技術・技能に関する到達レベル**を A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，また は判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判 断根拠を理解できる）に分類，さらに，**症例に関する到達レベル**を A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している：実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています.（**「研修カリキュラム項目表」**参照）

・自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.
① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題など

6） 大学院進学【整備基準 30】

大学院における臨床研究ならびに臨床に基づく基礎研究は，臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから，大学院における研究期間の一定期間は専攻医の研修期間として認められます. 臨床系大学院へ進学しても専門医研修の要件を満たせば専門医取得が可能です.

7） Subspecialty 領域の研修【整備基準 32】

内科専門研修カリキュラムに従って十分な研修を行い，内科専門研修の到達基準を満たすことができる場合には，専攻医の希望や研修の環境に応じて，3 年間の内科研修期間内にSubspecialty の専門研修を開始することができます（連動研修）.

3. 専攻医の到達目標【整備基準 4, 5, 8 ～10】（詳細は別表1参照）

1） 経験症例の到達目標

① カリキュラムに定める内科領域 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上を経験することを目標とします. それらの症例は，J-OSLER に登録し，指導医により確認・評価・承認されることが必要です.（定められた 70 疾患群 200 症例うち，最低 56 疾患群 120 症例の症例を経験することが修了要件）

② 登録された症例のうち 29 症例については病歴要約を作成し登録します. 登録された病歴要約は，**日本内科学会病歴要約評価ボード**による査読を受け，改訂を重ね受理されることが必要です.

2） 初期研修期間に経験した症例の取り扱いについて

初期研修期間に経験した症例のうち以下の①～④を満たす場合，内科領域の専攻研修で必要とされる修了要件 120 症例のうち 1/2 に相当する 60 症例，29 の病歴要約のうち 1/2 に相当する 14 症例を上限として登録することができます．

①日本内科学会指導医が直接指導をした症例であること．

②主たる担当医師としての症例であること．

③直接指導を行った日本内科学会指導医が内科領域専門医としての経験症例とすることの承認が得られること．

④内科領域の専攻研修プログラムの統括責任者の承認が得られること．

3） 専門知識と専門技能 【整備基準 4, 5】の到達目標

「研修カリキュラム項目表」に記載されている「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」の 13 領域における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などの**専門知識**を修得することが到達目標です．

また、**「技術・技能評価手帳」**に記載されているように，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，「医療面接」，「身体診察」，「検査結果の解釈」，ならびに「科学的根拠に基づいた幅の広い診断 ・治療方針決定」などの**専門技能**を修得することも到達目標です．さらに「全人的に患者・家族と関わってゆくこと」や「他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力」などの修得も目標とします．

各年次の到達目標は以下の基準を目安とします．

専門研修（専攻医）1年

症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，40 症例以上を経験J-OSLERにその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます．

専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して，J-OSLER へ登録します．

技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます．

態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行い，担当指導医がフィードバックを行います．

○専門研修（専攻医）2年

症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群， 80症例以上の経験をし，J-OSLER にその症例・研修内容を登録します．

専門研修修了に必要な病歴要約（20症例）を記載して，J-OSLERへ登録します．

技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty上級医の監督下で行うことができます．

態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．

○専門研修（専攻医）3年

症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，J-OSLER にその症例・研修内容を登録します．専攻医として適切な経験と知識の修得ができていることを指導医が確認します．

専門研修 3年次までに登録を終えた病歴要約は，**日本内科学会病歴要約評価ボード**による査読を受けます．査読者の評価を受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います．

技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます．

態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります．

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計120症例以上の経験を必要とします．J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します．

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の修得【整備基準 13】

1）**朝カンファレンス・チーム回診**：毎朝，患者申し送りを行い，チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け，指摘された課題 について学習を進めます．
2）**総回診**：診療科長などの上級指導医と回診を行い、受持患者について報告してフィードバックを受けます．受持以外の症例についても見識を深めます．
3）**症例検討会（週1回）**：診断・治療困難例などについて専攻医がカンファレンスで提示し，討論を行い，指導医からのフィードバックを受けます．
4）**診療手技セミナー**：内科専門医として必要な診療スキルの実践的なトレーニングを定期的に行います．（例：心エコー検査、腹部エコー検査など）
5）**CPC**：定期的に手術症例や剖検症例についての病理診断医とカンファレンスを行い，臨床診断との相違点や問題点などを検討し，診療能力のレベルアップを行います．
6）**関連診療科との合同カンファレンス**：関連診療科（外科・放射線科・病理医など）と合同で，患者の治療方針について検討し，内科以外の診療内容についても広く学びます．
7）**抄読会（週1回開催，担当する専攻医は持ち回り）**：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し，意見交換を行います．
8）**8) 臨床研究セミナー（3 ヵ月に1回程度）**：臨床研究セミナーでは各施設や各講座で行われている研究について学習し，臨床研究の仕方や基礎医学との関連を学び，リサーチマインドを修得します．
9）**Weekly summary discussion**：週に 1 回，指導医との **Weekly summary discussion** を行い，その際当該週の自己学習結果を指導医が評価し，研修手帳に記載します．
10）**学生・初期研修医に対する指導**：病棟や外来で医学生や初期研修医を指導します．後輩を指導することは，自分の知識を整理・確認することにつながることから，当プログラムでは，専攻医の重要な取組と位置づけています．

11) 週間スケジュール（標準例）

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">朝カンファレンス
チーム回診</td><td rowspan="6">・担当患者の病態に応じた診療
・日当直（1 回/月）
・講習会，学会への参加</td></tr>
<tr><td>内科外来</td><td>内科検査</td><td rowspan="2">内科外来</td><td>総回診</td><td>内科検査</td></tr>
<tr><td>病棟診療</td><td>病棟診療</td><td>病棟診療</td><td>病棟診療</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td>病棟診療</td><td>内科検査</td><td>病棟診療</td><td>内科検査</td><td>外来（急患対応）</td></tr>
<tr><td colspan="5">チーム回診</td></tr>
<tr><td>キャンサーボード</td><td>疾患別カンファレンス</td><td>抄読会・症例検討会</td><td>CPC/講習会/地域参加型カンファレンス</td><td>Weekly summary discussion</td></tr>
<tr><td colspan="6">・担当患者の病態に応じた診療　・オンコール/当直（1 回/週）</td></tr>
</table>

5. 学問的姿勢【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる学問的姿勢とは，単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この姿勢は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります．具体的には、以下の項目を実践することにより，学問的姿勢とリサーチマインドを修得します．

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする．
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM：evidence based medicine）．
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）．
④ 診断や治療のevidence の構築・病態の理解につながる研究を行う．
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く．

また、後輩を指導する姿勢や能力も重要であり、以下の項目も実践します．

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う．
② 後輩専攻医の指導を行う．
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う．

6. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

富山大学地域連携型内科専門医研修では，基幹病院，連携病院，特別連携病院のいずれにおいても，以下に示す学術活動に参加し，内科専門医に必要な学術的な能力を修得します．

① 内科系の学術集会や講演会などの企画に年 2 回以上参加します（必須）．
※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会への参加を推奨します．
② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います．
③ 学会発表あるいは論文発表は筆頭者として2件以上行います（必須）．
④ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います．

7. 医師に必要な倫理観，社会性【整備基準 12】

富山大学地域連携型内科専門医研修では，**医の倫理**「医学および医療は、病める人の治療はもとより、人びとの健康の維持もしくは増進を図るもので、医師は責任の重大性を認識し、人類愛を基にすべての人に奉仕するものである」を尊重し、指導医とともに下記の①～⑪について積極的に研鑽し、医師としての高い倫理観と社会性を修得します．

① 患者中心の医療の実践
② 患者から学ぶ姿勢
③ 自己省察の姿勢
④ 医の倫理への配慮
⑤ 医療安全への配慮
⑥ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑦ 地域医療・保健活動への参画
⑧ 患者とのコミュニケーション能力
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ チーム医療の実践と役割の認識
⑪ 後輩医師への指導

8. 研修施設群による研修プログラムと地域医療での役割【整備基準 25～29】

富山大学附属病院（基幹施設）において，必須症例の経験や専門技術の修得が単独施設で履修可能であっても，地域医療を実施するため，複数の連携施設（**別表 2 連携施設・特別連携施設一覧，別表 4 施設概要を参照**）での研修を行うことが望ましく，原則として全ての研修コースにおいてその経験を求めます．

特定機能病院である富山大学附属病院（研修基幹施設）では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設では，地域の第一線における医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．Common disease の経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療も担当し，地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動も基幹施設の研修と同様に行います．

特別連携施設では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．特別連携施設には，基幹病院から定期的に内科指導医を派遣し，専攻医を指導します（指導医 4名/週）．

連携病院へのローテーションを行うことで，人的資源の集中を避け，派遣先の医療レベル維持にも貢献します．地域における指導の質および評価の正確さを担保するため，基幹施設の研修プロログラム管理委員会と連絡ができる環境を整備します．

9. 研修コース【整備基準 16, 25, 31】

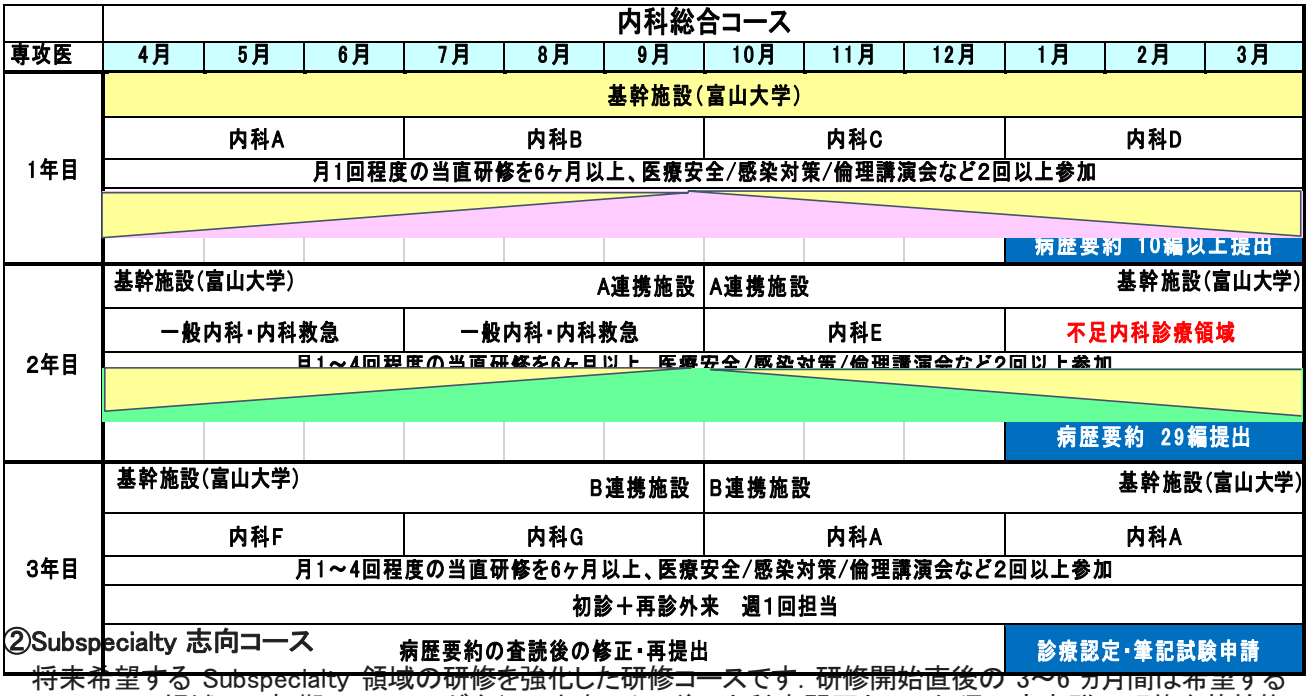
本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて，主に以下の 3つのコース（**①内科総合コース，②Subspecialty 志向コース**，**③地域医療志向コース**）から1つを選択します．コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます．

Subspecialty が未決定，または高度な総合内科専門医を目指す場合は**①内科総合コース**を選択します．将来の Subspecialty が決定している専攻医は，**②Subspecialty 志向コース**し，内科専門医に必要な 70 疾患群を

経験するとともに Subspecialty 分野の研修を意識した研修内容を選択します（早期からSubspecialty専門研修を並行して開始する場合もあります：連動研修）．また，将来的に地域の医療機関での診療を志向する専攻医は，**③地域医療志向コース**を選択し，内科専門医に必要な経験と積むとともに実践力をつける研修を行います．
いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られるように工夫されており，専攻医は卒後5年で内科専門医取得ができます．

①内科総合コース

高度な総合内科専門医を目指す場合や Subspecialty が未決定の場合は，①内科総合コースを選択します．内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり，専攻医研修期間の 3 年間において内科領域を担当する全ての領域を研修します．高い専門性と地域医療までを包括的に修得するため，専攻医研修期間の 3年間において、基幹施設1年以上，連携施設1年以上の研修を基本に研修します．
研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，研修プログラム管理委員会で検討し，プログラム統括責任者が決定します．



②Subspecialty 志向コース

将来希望する Subspecialty 領域の研修を強化した研修コースです．研修開始直後の 3～6 カ月間は希望する Subspecialty 領域にて初期トレーニングを行います．その後，内科専門医として必須の疾患群の研修を基幹施設および連携施設で行います．内科研修修了に必要な診療実績が確保できた段階で，Subspecialty 領域に比重をおいた研修を基幹病院あるいは連携病院で研修します（Subspecialty との連動研修）．
研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，希望する Subspecialty 領域の責任者と研修プログラム管理委員会とで協議し、プログラム統括責任者が決定します．また，専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は，本コースを選択の上，担当領域の教授と協議して大学院入学時期を決めます．

	Subspecialty志向コース（基幹施設重点コース）											
専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹施設（富山大学）											
	内科A			内科B			内科C			内科D		
	月1回程度の当直研修を6ヶ月以上、医療安全/感染対策/倫理講演会など2回以上参加											
	内科救急講習会(JMECC)に1回以上参加											
										病歴要約 10編以上提出		
2年目	基幹施設（富山大学）→A連携施設						A連携施設			→基幹施設（富山大学）		
	内科E			不足内科診療領域			一般内科・内科救急			内科F		
	月1～4回程度の当直研修を6ヶ月以上、医療安全/感染対策/倫理講演会など2回以上参加											
	初診＋再診外来　週1回担当											
										病歴要約 29編提出		
3年目	基幹施設（富山大学）→B連携施設						B連携施設			→基幹施設（富山大学）		
	内科A			内科A			内科A			内科A		
	月1～4回程度の当直研修を6ヶ月以上、医療安全/感染対策/倫理講演会など2回以上参加											
	初診＋再診外来　週1回担当											
	病歴要約の査読後の修正・再提出									診療認定・筆記試験申請		

③地域医療志向コース

地域医療に密着した高度な総合内科専門医を目指す場合は，③地域医療志向コースを選択します．地域の基幹となる連携施設でのより実践的な研修を中心としながら，特定機能病院である富山大学附属病院（基幹病院）で研修することにより，リサーチマインドを育成します．研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，研修プログラム管理委員会で検討し，プログラム統括責任者が決定します．

	地域志向コース（連携施設重点コース）											
専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	A連携施設						A連携施設					
	一般内科・内科救急			一般内科・内科救急			内科A			内科B		
	月1 回程度の当直研修を6 ヶ月以上、医療安全/ 感染対策/ 倫理講演会など2回以上参加											
	内科救急講習会(JMECC)に1 回以上参加											
										病歴要約 10 編以上提出		
2年目	基幹施設(富山大学)						基幹施設(　富山大学)					
	内科C			内科D			不足内科領域研修 (血液・膠原病など			不足内科領域研修 (血液・膠原病など)		
	月1 ～4 回程度の当直研修を6 ヶ月以上、医療安全/ 感染対策/ 倫理講演会など2回以上参加											
	初診＋再診外来　週1回担当											
										病歴要約 29 編提出		
3年目	基幹施設（富山大学）→A/ B連携施設						A連携施設					
	内科E			内科F			内科A			内科A		
	月1 ～4 回程度の当直研修を6 ヶ月以上、医療安全/ 感染対策/ 倫理講演会など2回以上参加											
	初診＋再診外来　週1回担当											
	病歴要約の査読後の修正・再提出									診療認定・筆記試験申請		

10. 専門医研修の評価 【整備基準 17～22】

1) 形成的評価(指導医の役割)

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と，専攻医が J-OSLER に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し，症例要約の作成についても指導します．また，技術・技能についての評価も行います．年に 2 回以上，目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき，研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い，適切な助言を行います．研修プログラム管理委員会は指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し，必要に応じて指導医へ連絡を取り，評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います．

2) 総括的評価

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例，技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います．29 例の病歴要約の受理(合格)，所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります．最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます．この修了後に実施される内科専門医試験を受験し、合格後に内科専門医の資格を取得します．

3) 研修態度・医師としての適性の評価

指導医や上級医のみでなく，メディカルスタッフ(病棟看護師長，臨床検査・放射線技師・臨床工学 技士など)から，接点の多い職員 2 名程度を指名し，毎年 2 回(9 月と 3 月)評価します(360 度評価)．また、研修施設を異動する際にも，指導医およびメディカルスタッフによる評価を行います．評価法については別途定めるものとします．

4) 専攻医による自己評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い，研修上の問題点や悩み，研修の進め方，キャリア形成などについて考える機会(自己評価)を持ちます．少なくとも年2回以上(9 月と 3 月)は自己評価をもとに，指導医と相談の機会を設けます．

5) 専攻医による指導医とプログラムの評価 【整備基準 49～50】

1)アンケート調査:毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い，専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し，次期プログラムの改訂の参考とします．アンケート用紙は別途定めます．

2)アンケートとは別に，指導医，プログラム，および研修施設について J-OSLER を用いて無記名式逆評価を年に数回行います．複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．これらの結果に基づき，指導医やプログラム，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

11. 研修プログラム管理委員会 【整備基準 35～39】

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理する研修プログラム管理委員会を富山大学附属病院に設置し，プログラム統括責任者(内科系診療科長から1名選出)，内科系 Subspecialty 分野の研修指導責任者(診療科科長)，事務局代表者，および連携施設内科専門研修責任者(各施設の内科専門研修委員会委員長)で構成されます(**別表3 研修プログラム管理委員会構成員一覧を参照**)．

プログラム管理委員会の下部組織として，基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します．各施設の委員長 は，基幹施設との連携のもと，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 1 回開催する富山大学地域連携型内科専門医研修プログラム管理委員会の委員として出席します．

2) プログラム管理委員会の役割と権限

・適切な研修プログラムの作成と研修環境の確保

・CPC，JMECC 等の開催

・適切な評価の保証

・プログラム修了判定

・各施設の研修委員会への指導権限を有し，同委員会における各専攻医の進達状況の把握，問題点の抽出，解決，および各指導医への助言や指導の最終責任を負います．

3) 基幹施設，連携施設，特別連携施設の実績報告などについて

各施設は，毎年 4 月 30 日までに，富山大学内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います

① 前年度の診療実績

a) 病院病床数，b) 内科病床数，c) 内科診療科数，d) 1ヵ月あたりの平均内科外来患者数，

e)1 ヵ月あたりの平均内科入院患者数，f) 剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績, b)今年度の指導医数/総合内科専門医数, c)今年度の専攻医数,

d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③ 前年度の学術活動

a) 学会発表, b) 論文発表

④ 施設状況

a) 施設区分, b) 指導可能領域, c) 内科カンファレンス, d) 他科との合同カンファレンス,

e) 抄読会, f) 文献検索システム, g) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会,

h) JMECC の開催.

⑤内科系 Subspecialty 領域の専門医数 （以下の学会が認定する各専門医数）

日本消化器病学会, 日本循環器学会, 日本内分泌学会, 日本糖尿病学会, 日本腎臓病学,

日本呼吸器学会, 日本血液学会, 日本神経学会, 日本アレルギー学会,

日本リウマチ学会, 日本感染症学会, 日本救急医学会, 日本老年医学会

12. 専攻医の就業環境(労務管理)【整備基準 40】

専攻医の勤務時間, 休暇, 当直, 給与等の勤務条件に関しては, 専攻医の就業環境を整えることを重視します. 労働基準法を順守し, 富山大学附属病院の「※医師(医員)の就業規則及び給与規則」に従います. 専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します. 特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います. 専攻医は採用時に上記の労働環境, 労働安全, 勤務条件の説明を受けることとなります. プログラム管理委員会では各施設における労働環境, 労働安全, 勤務に関して報告され, これらの事項について総括的に評価します.

※本プログラムでは専攻医が研修している施設(基幹施設, 連携施設, 特別連携施設)における就業規則と給与規則を適応しますが, 専攻医に不利益とならないようにプログラム管理委員会が確認します.

13. 研修プログラムの改善方法【整備基準 49～51】

研修プログラム管理委員会を富山大学附属病院にて開催し(年1回以上), プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し, 問題点を明らかにします. また, 各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます. また, 研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に, プログラム管理委員会は毎年, 次年度のプログラム全体を見直すこととします.

専門医機構によるサイトビジットに対しては研修プログラム管理委員会が真摯に対応し, 専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け, プログラムの改善に繋げます.

14. 修了判定【整備基準 21, 53】

J-OSLER に以下のすべてが登録され, かつ担当指導医が承認 していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います.

1) 修了認定には, 主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる)を経験し, 登録する.
2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
4) JMECC 受講
5) プログラムで定める講習会受講
6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき, 医師としての適性に疑問がないこと.

15. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと【整備基準 21, 22】

1)専攻医は富山大学地域連携型内科専門医研修プログラムに定める修了認定申請書に必要事項を記載し、専門医認定申請年の 1 月末までにプログラム管理委員会に送付する.
プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行い, 研修証明書(修了証)を専攻医に送付する.

2)専攻医は以下の書類を用意し、内科専門医資格を申請する年度の 4 月末までに日本専門医機構内科専門医委員会(内科領域認定医委員会)に提出します.

①日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
②履歴書
③富山大学地域連携型内科専門医研修プログラム修了証

3)内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで, 日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります.

16. 研修プログラムの施設群【整備基準 23～27】

本プログラムは富山大学附属病院を基幹施設とし, 連携施設 41施設, 特別連携施設 4施設で専門研修施設群を構成し, より総合的な研修や地域における医療研修が可能です.

・基幹病院:富山大学附属病院
・連携施設:41施設(富山県内 21施設, 富山県外 20施設), 特別連携施設4施設(富山県内 3施設, 富山県外 1 施設) ＊**「連携施設・特別連携施設一覧」(別表 2)**と**「連携施設概要」(別表 4)**を参照.

17. 専攻医の受け入れ数（募集専攻医数）【整備基準 27】

下記1)～6)により，富山大学地域連携型内科専門医研修プログラムにおける専攻医の募集数の上限は1学年**25 名**です．

1） 基幹施設である富山大学附属病院の内科系診療科に所属し，後期研修している医師数（専攻医数）は，2018～2025年度の8年間の合計が105名で 1 学年平均約 13名以上の実績があります．

2） 富山大学附属病院には内科研修に必須の内科 13 領域の専門医が各1名以上、常勤医として勤務．

3） 富山大学附属病院の内科指導医数は 46名，プログラム全体（按分後）では，77名です．

4） 富山大学附属病院の剖検体数は 2021年度 24体，2022年度 15 体、2023年度 14体です．連携施設の剖検数の合計（按分後）15.2体で、プログラム全体（按分後）では 27.0体です

5） 経験すべき症例数の充足について：下記に示すように，内科 13 領域、70 疾患群における診療実績があり，専攻医は十分な症例の経験が可能です

6） 本プログラムで研修を行う場合，原則として研修施設での雇用となります．基幹施設である富山大学附属病院での研修期間は，専攻医は医員として雇用されます．

表．富山大学附属病院（基幹施設）診療科別診療実績（2025年度）

2025 年度実績	退院患者数（人/年）	外来延べ患者数（人/年）
第1内科（呼吸器内科，内分泌・代謝内科，膠原病・アレルギー内科）	966	28,678
第2内科（循環器内科，腎臓内科）	1,394	22,653
第3内科（消化器内科）	1,645	18,858
血液内科	435	4,907
脳神経内科	388	9,247
感染症科	136	1,181
和漢診療科	24	8,694
総合診療科	74	3,695
臨床腫瘍部（腫瘍内科，緩和ケア）	73	1,380

表. 富山大学附属病院(基幹施設)の 13 疾患群別診療実績(入院症例数)(2025年度)

疾患群	入院症例数 (人 /年)	疾患群	入院症例数 (人 /年)
1. 総合内科 (一般, 高齢者, 腫瘍)	123	8. 血液	322
2. 消化器	1,437	9. 神経	307
3. 循環器	1,098	10. アレルギー	主に外来で経験可
4. 内分泌	48	11. 膠原病	120
5. 代謝	108	12. 感染症	203
6. 腎臓	153	13. 救急＊	496
7. 呼吸器	844	＊救急搬送された内科の入院症例数	

18. 研修の休止・中断, プログラム移動, プログラム外研修の条件【整備基準 33】

1)出産, 育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 ヵ月とし, 研修期間内の調整で不足分を補うこととします. 6 ヵ月以上の休止の場合は未修了とみなし, 不足分を予定修了日以降に補うこととします. また, 疾病による場合も同じ扱いとします.

2)研修中に居住地の移動, その他の事情により, 研修開始施設での研修続行が困難になった場合は, 移動先の基幹研修施設において研修を続行できます. その際, 移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します. この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります.

19. 専門研修指導医【整備基準 36】

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です. 専攻医を指導し, 評価を行います.

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること.
2. 専門医取得後に臨床研究論文(症例報告含む)を発表する(「first author」もしくは「corresponding author」であること). もしくは学位を有していること.
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること.
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること.

【 選択とされる要件である下記の 1, 2 のいずれかを満たすこと】

1. CPC, 症例検討会, 学術集会(医師会含む)などへ主導的立場として関与・参加すること.
2. 日本内科学会での教育活動(病歴要約の査読, JMECC のインストラクターなど)

※但し, 当初は指導医の数も多く見込めないことから, すでに「総合内科専門医」を取得している方々は, そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため, 申請時に指導実績や診療実績が十分であれば, 内科指導医と認めます. また, 現行の 日本内科学会の定める指導医については, 内科系 Subspecialty 専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は, これまでの指導実績から, 移行期間(2025 年まで)においてのみ指導医と認めます.

20. 専攻医登録評価システム(J-OSLER), マニュアル等【整備基準 41～48】

1)研修実績および評価を記録し蓄積するシステム

日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います．同システムでは以下の項目についてweb ベースで日時を含めて記録します．

①専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上，160 症例の研修内容を登録する．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います．

②指導医による専攻医の形成的評価，メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します．

③全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，**日本内科学会病歴要約評価ボード**による査読を受けます．査読者の評価を受け，指摘事項に基づいた改訂を受理(アクセプト)されるまでシステム上で行います．

④専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します．

⑤専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等(例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会)の出席をシステム上に登録します．

上記の項目について、担当指導医は各専攻医の進捗状況を遅滞なく把握します．担当指導医，研修委員会，ならびに研修プログラム管理委員会はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します．

・専攻医の症例経験入力日時と指導医の評価の日時の差を計測することによって担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニターします．

・研修委員会ならびにプログラム管理委員会は専攻医の研修状況のみならず，担当指導医の指導状況や，各研修施設群での研修状況の把握を行い，プログラムの改善に役立てます．

・日本専門医機構内科領域研修委員会は研修施設群の専攻医の研修状況を把握し，プログラムの妥当性を検証します．

2)専攻医研修マニュアルおよび指導者マニュアル

・内科専攻医候補の初期臨床研修医に専門研修内容とその特徴を明示するため，内科専攻医研修マニュアルを作成し提示します(内科専攻医研修マニュアルは別に示す)．

・内科専攻医を指導する指導医に向けた指導マニュアルを作成し指導医に提示します(指導医マニュアルは別に示す)．

21. 研修に対するサイトビジット(訪問調査)【整備基準 51】

本内科研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります．サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われ，その評価はプログラム管理委員会に伝えられ，必要な場合は研修プログラムの改良を行います．

22. 専攻医の採用と修了【整備基準 52,53】

1)採用方法

富山大学内科専門研修プログラム管理委員会は，日本専門医機構が定めた期日から専攻医の応募を受付けます．

応募者は日本内科学会のホームページにアクセスし、学会ホー ムページを窓口として、機構が作成した専門研修プログラムシステムから専攻医登録し、「富山大学地域連携型内科専門医研修プログラム」を

択して、登録してください。
　応募者は Web での登録と並行して，富山大学内科専門研修プログラム統括責任者宛に下記の書類を提出します．書類選考および面接等を行い，採否を決定します．
①「富山大学専門研修応募申請書」
②　履歴書（以下のいずれかの方法で入手）
(1) 富山大学附属病院専門医養成支援センター web site（http://www.hosp.u-toyama.ac.jp/camt/）からダウンロード
(2) 電話で問い合わせ (076-434-7106)，
(3) e-mail で問い合わせ（senmon@med.u-toyama.ac.jp）

2） 研修開始届け

　研修を開始する専攻医は，各年度の 4 月 1 日までに以下の①～③を富山大学内科専門研修プログラム管理委員会（事務局 senmon@med.u-toyama.ac.jp）および，日本専門医機構内科領域研修委員会（senmoni@isis.ocn.ne.jp）に提出します．
①「専攻医氏名報告書」：専攻医の氏名，医籍登録番号，日本内科学会会員番号，卒業年度、専門研修開始年度等を記載
②「医師臨床研修修了登録証」（コピー）あるいは「臨床研修修了見込み証明書」
③「医師免許証」（コピー）

3） 研修の修了

　全研修プログラム終了後，研修プログラム統括責任者が召集する研修プログラム管理委員会にて審査し，研修修了の可否を判定します．
審査の対象となる事項は、主に J-OSLER に登録された下記の事項です．
(1)　専門研修実績記録
①主担当医として最低 56 疾患群以上の経験と計120症例以上の症例経験の登録と指導医による承認
②所定の受理された 29 編の病歴要約
③「専門技術・技能」で定める項目の達成レベルの登録と指導医による承認
(2)　所定の 2 編の学会発表または論文発表
(3)　プログラムで定める講習会（医療倫理，医療安全，感染対策）への出席記録
(4)　JMECC 受講歴（修了証）
(5)　指導医による「形成的評価」の実績
(6)　メディカルスタッフによる評価を含む「多職種評価（360 度評価）」の実績

　面接審査は書類審査で問題にあった事項について行われます．
以上の審査により，内科専門医として適格と判定された場合は，研修修了となります．

（別表 1）内科専門研修における「症例数」「疾患群」「病歴要約」到達目標

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

（別表２）連携施設・特別連携施設一覧

連携施設

所在地	施設名	施設長	研修委員長	連絡先 TEL	連絡先 FAX
富山県	富山県立中央病院	加治 正英	酒井 明人	076-424-1531	076-422-0667
富山県	富山市民病院	林 茂	大田 聡	076-422-1112	076-422-1731
富山県	厚生連高岡病院	柴田 和彦	狩野 惠彦	0766-21-3930	0766-24-9509
富山県	高岡市民病院	福島 亘	大澤 幸治	0766-23-0204	0766-26-2882
富山県	市立砺波総合病院	河合 博志	白石 浩一	0763-32-3320	0763-33-1487
富山県	富山赤十字病院	竹村 博文	時光 善温	076-433-2222	076-433-2274
富山県	黒部市民病院	辻 宏和	河岸 由紀男	0765-54-2211	0765-54-2962
富山県	富山労災病院	角谷 直孝	川﨑 聡	0765-22-1280	0765-22-5475
富山県	厚生連滑川病院	小栗 光	橋本 直輝	076-475-1000	076-475-7997
富山県	富山県済生会高岡病院	川端 雅彦	鈴木 崇之	0766-21-0570	0766-23-9025
富山県	富山県済生会富山病院	堀江 幸男	亀山 智樹	076-437-1111	076-437-1122
富山県	かみいち総合病院	佐藤 幸浩	佐藤 幸浩	076-472-1212	076-472-1213
富山県	JCHO 高岡ふしき病院	中辻 裕司	篠田 千恵	0766-44-1181	0766-44-3862
富山県	射水市民病院	深原 一晃	原田 大輔	0766-82-8100	0766-82-8104
富山県	南砺市民病院	品川 俊治	品川 俊治	0763-82-1475	0763-82-1853
富山県	北陸中央病院	池渕 公博	武藤 寿生	0766-67-1150	0766-68-2716
富山県	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	畑崎 喜芳	小西 宏史	076-428-2233	076-437-5390
富山県	富山西総合病院	麻野井 英次	山本 精一	076-461-7700	076-461-7788
富山県	真生会富山病院	真鍋 恭弘	刀塚 俊起	0766-52-2156	0766-52-2197
富山県	あさひ総合病院	東山 考一	渡辺 哲郎	0765-83-1160	0765-82-0401
富山県	国立病院機構富山病院	金兼 千春	河合 暦美	076-469-2135	076-469-5616
東京都	社会福祉法人三井記念病院	川崎 誠治	五十川 陽洋	03-3862-9111	03-5687-9765
東京都	国立国際医療研究センター病院	宮嵜 英世	放生 雅章	03-3202-7181	03-3207-1038
東京都	東京都立駒込病院	戸井 雅和	大橋 一輝	03-3823-2101	03-3823-5433
東京都	東京都済生会中央病院	海老原 全	河合 俊英	03-3451-8211	03-3457-7949
東京都	東京女子医科大学附属足立医療センター	塩沢 俊一	小川 哲也	03-3857-0112	03-3857-0115
東京都	国家公務員共済組合連合会虎の門病院	門脇 孝	森 保道	03-3588-1111	03-3582-7068
東京都	JCHO東京山手メディカルセンター	橋本 政典	笠井 昭吾	03-3364-0251	03-3364-5663
新潟県	立川綜合病院	岡部 正明	高野 弘基	0258-33-3111	0258-39-2966
新潟県	新潟県立中央病院	田部 浩行	船越 和博	025-522-7711	025-521-3720
新潟県	上越総合病院	篭島 充	篭島 充	025-524-3000	025-524-3002
新潟県	糸魚川総合病院	山岸 文範	松木 晃	025-552-0280	025-552-8219
長野県	相澤病院	相澤 克之	新倉 則和	0263-33-8600	0263-33-8609
長野県	飯山赤十字病院	小山 茂	渡邉 貴之	0269-62-4195	0269-62-4449
長野県	千曲中央病院	大西 禎彦	宮林 千春	026-273-1212	026-272-2991
岐阜県	高山赤十字病院	清島 満	堀 正和	0577-32-1111	0577-34-4155
岐阜県	久美愛厚生病院	山本 昌幸	横山 敏之	0577-35-1115	0577-34-7225
岐阜県	飛騨市民病院	工藤 浩	工藤 浩	0578-82-1150	0578-82-1631
福井県	福井大学医学部附属病院	藤枝 重治	夛田 浩	0776-61-8800	0776-61-8801
大阪府	阪和記念病院	押野 悟	矢田 豊	06-6696-5591	06-6105-0119
大阪府	大阪市立総合医療センター	清水 貞利	小西 啓夫	06-6929-1221	06-6929-1090
福岡県	飯塚病院	本村 健太	井上 博喜	0948-22-3800	0948-29-8075

特別連携施設

所在地	施設名	施設長	内科責任者	連絡先 TEL	連絡先 FAX
富山県	富山協立病院	岩城 光造	岩城 光造	076-433-1077	076-444-5724
富山県	利賀診療所	粟山 高寛	粟山 高寛	0763-68-2013	0763-68-2213
富山県	上平診療所	腰塚 桜	腰塚 桜	0763-67-3232	0763-67-3707
新潟県	けいなん総合病院	平野 正明	平野 正明	0255-72-3161	0255-73-8102

（別表３）　内科専門研修プログラム管理委員会　構成員一覧

施設名	役職	氏名	連絡先 TEL	連絡先 FAX
富山大学附属病院	プログラム統括責任者	山本 善裕	076-434-7247	076-434-5018
富山大学附属病院	副統括責任者	藤浪 斗	076-434-7012	076-434-0366
富山大学附属病院	委員	加藤 将	076-434-7287	076-434-5025
富山大学附属病院	委員	絹川 弘一郎	076-434-7297	076-434-5026
富山大学附属病院	委員	安田 一朗	076-434-7301	076-434-5027
富山大学附属病院	委員	佐藤 勉	076-434-7232	076-434-5106
富山大学附属病院	委員	渡辺 憲治	076-434-7384	076-434-5027
富山県立中央病院	委員	酒井 明人	076-424-1531	076-422-0667
富山市民病院	委員	大田 聡	076-422-1112	076-422-1371
厚生連高岡病院	委員	狩野 恵彦	0766-21-3930	0766-24-9509
高岡市民病院	委員	大澤 幸治	0766-23-0204	0766-26-2882
市立砺波総合病院	委員	白石 浩一	0763-32-3320	0763-33-1487
富山赤十字病院	委員	時光 善温	076-433-2222	076-433-2274
黒部市民病院	委員	河岸 由紀男	0765-54-2211	0765-54-2962
富山労災病院	委員	川﨑 聡	0765-22-1280	0765-22-5475
厚生連滑川病院	委員	橋本 直輝	076-475-1000	076-475-7997
富山県済生会高岡病院	委員	鈴木 崇之	0766-21-0570	0766-23-9025
富山県済生会富山病院	委員	亀山 智樹	076-437-1111	076-437-1122
かみいち総合病院	委員	佐藤 幸浩	076-472-1212	076-472-1213
JCHO 高岡ふしき病院	委員	篠田 千恵	0766-44-1181	0766-44-3862
射水市民病院	委員	原田 大輔	0766-82-8100	0766-82-8104
南砺市民病院	委員	品川 俊治	0763-82-1475	0763-82-1853
北陸中央病院	委員	武藤 寿生	0766-67-1150	0766-68-2716
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	委員	小西 宏史	076-428-2233	076-437-5390
富山西総合病院	委員	山本 精一	076-461-7700	076-461-7788
真生会富山病院	委員	刀塚 俊起	0766-52-2156	0766-52-2197
国立病院機構 富山病院	委員	河合 暦美	076-469-2135	076-469-5616
あさひ総合病院	委員	渡辺 哲郎	0765-83-1160	0765-82-0401
社会福祉法人三井記念病院	委員	五十川 陽洋	03-3862-9111	03-5687-9765
国立国際医研究センター病院	委員	放生 雅章	03-3202-7181	03-3207-1038
東京都立駒込病院	委員	大橋 一輝	03-3823-2101	03-3823-5433
東京都済生会中央病院	委員	河合 俊英	03-3451-8211	03-3457-7949
東京女子医科大学附属足立医療センター	委員	小川 哲也	03-3857-0112	03-3857-0115
国家公務員共済組合連合会虎の門病院	委員	森　保道	03-3588-1111	03-3582-7068
東京山手メディカルセンター	委員	笠井 昭吾	03-3364-0251	03-3364-5663
立川綜合病院	委員	高野 弘基	0258-33-3111	0258-39-2966
新潟県立中央病院	委員	船越 和博	025-522-7711	025-521-3720
上越総合病院	委員	篭島 充	025-524-3000	025-524-3002
糸魚川総合病院	委員	松木 晃	025-552-0280	025-552-8219
相澤病院	委員	新倉 則和	0263-33-8600	0263-33-8609
飯山赤十字病院	委員	渡邉 貴之	0269-62-4195	0269-62-4449
千曲中央病院	委員	宮林 千春	026-273-1212	026-272-2991
高山赤十字病院	委員	堀 正和	0577-32-1111	0577-34-4155
久美愛厚生病院	委員	横山 敏之	0577-35-1115	0577-34-7225
飛騨市民病院	委員	工藤 浩	0578-82-1150	0578-82-1631
福井大学医学部附属病院	委員	夛田 浩	0776-61-8800	0776-61-8801
阪和記念病院	委員	矢田 豊	06-6696-5591	06-6105-0119
大阪市立総合医療センター	委員	小西 啓夫	06-6929-1221	06-6929-1090
飯塚病院	委員	井上 博喜	0948-22-3800	0948-29-8075

(別紙4) 基幹施設・連携施設概要(施設別)基幹施設

富山大学附属病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。医学中央雑誌、UpToDate、および多くの海外ジャーナルが無料で閲覧できます。 ・富山大学附属病院医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります。 ・ハラスメント委員会が富山大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・基幹施設として「富山大学地域連携型内科専門医研修プログラム」を作成しており、富山県立中央病院、厚生連高岡病院、上越総合病院、高山赤十字病院、大阪市立総合医療センター、福井大学医学部附属病院の内科専門研修プログラムの連携施設となっています。 ・内科指導医が 42 名在籍しています。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 1 回, 2024年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC インストラクターが常勤し、年 1～2 回開催しています。 ・研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．剖検を実施（実績 2022年度15体、2023年度14体、2024年度18体、2025年度21体）
認定基準 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野 (総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急) で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会総会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	山本 善裕 （附属病院長、感染症科 教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 富山大学附属病院は富山県内唯一の特定機能病院であり、最先端の医療を実践する医療機関であると共に医学生・研修医の教育・研究機関です。専門医研修に必要な全内科領域の指導医と十分な症例が確保され、質の高い研修が可能です。また、富山県内および近隣県の連携病院と人材育成・地域医療充実のための協力体制が構築されております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 42 名、日本内科学会総合内科専門医 62 名 日本消化器病学会消化器専門医 24 名、日本循環器学会循環器専門医 16 名、 日本内分泌学会専門医 9 名、日本糖尿病学会専門医 13 名、 日本腎臓病学会専門医 6 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、 日本血液学会血液専門医 7 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、 日本アレルギ学会専門医（内科）4 名、日本リウマチ学会専門医 7 名、 日本感染症学会専門医 3 名, 日本老年医学会専門医 3 名、 日本肝臓学会専門医 9 名、日本救急医学会救急科専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 99,293名（2025年度） 内科系入院患者5135 名（2025 年度）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

連携施設
富山県立中央病院

1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境（無線及び有線）があります. •富山県非常勤医師職員として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（健康相談室）が院内にあります. •ハラスメント委員会が富山県庁内（人事課厚生係）に整備されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり，利用可能です．病児保育にも対応しています.
2)専門研修プログラムの環境	•指導医は22名在籍しています. •内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．CPC を定期的に開催（2023年度実績8回）し，専攻医に受講を義務付け，そのため の時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（中央病院病診連携談話会，富山県立中央病院消化器キャンサーボード，富山県立中央病院救急事例検討会，病院CPC, 在宅緩和ケア懇話会，胸部レントゲンカンファレンス，漢方症例検討会）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. •70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. •専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年度12体，2023年度9体）．北陸地方では最大級の臨床症例数，剖検数です.
4)学術活動の環境	**·臨床研究に必要な図書室，インターネット環境（無線及び有線）を備えた研修室などを整備しています.** **·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています.** **·治験委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています.** **·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.**
指導責任者	酒井　明人 【内科専攻医へのメッセージ】 富山県立中央病院は，富山県富山医療圏の中心的な高度急性期病院であり，富山医療圏・新川医療圏・砺波医療圏・金沢医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医22名，日本内科学会総合内科専門医22名 日本消化器病学会消化器専門医6名，日本肝臓学会肝臓専門医4名 日本循環器学会循環器専門医4名， 日本糖尿病学会専門医3名，日本内分泌学会内分泌専門医3名 日本腎臓病学会専門医2名，日本呼吸器学会呼吸器専門医2名

	日本血液学会血液専門医4名，日本神経学会神経内科専門医2名， 日本アレルギー学会専門医（内科）1名，日本リウマチ学会専門医2名， 日本救急医学会救急科専門医（内科）1名
外来・入院患者数	外来患者　8,803名（1ヶ月平均）　入院患者　498名（1ヶ月平均） いずれも北陸地方で最大級の患者数です。
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて，13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．加えて各内科分野において，より高度な専門技術も習得することが出来ます．
経験できる地域医療・診療連携	高度急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設，日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設，日本アレルギー学会認定教育施設， 日本血液学会認定血液研修施設，日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会認定専門医制度研修施設，日本糖尿病学会認定教育施設， 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設，日本高血圧学会専門医認定施設 日本神経学会教育関連施設，日本脳卒中学会認定研修教育病院， 日本感染症学会連携研修施設，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設， 日本臨床腫瘍学会認定研修施設， 日本がん治療認定医機構認定研修施設，日本緩和医療学会認定研修施設， 　など

富山市立富山市民病院

1)専攻医の環境	•研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •富山市立富山市民病院任期付常勤医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. •パワハラ・セクハラ等の相談のためのアドボカシー室が整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	•指導医が6名在籍しています. •内科専攻医研修委員会を設置予定であり，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．CPC を定期的に開催（2023年度実績8回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（開放病床症例検討会12回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •専門研修に必要な剖検を実施しています（実績 2023年度12体）
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	大田 聡 【内科専攻医へのメッセージ】 富山市立富山市民病院は地域に密着した急性期・高度急性期医療を担う総合中核病院であり、特に救急診療・がん診療に力を入れています。内科のすべての領域の症例が経験できますが、特に救急診療は充実していると自負しております。また、がん診療においては、2016年に富山県で初めての最新のIMRT専用放射線治療装置が導入されますし、県内に2つしかない「緩和ケア病棟」２０床を持ち、全国的にも評価の高い緩和医療を提供しています。各専門領域の指導医が「質の高い医療」をキーワードとして診療にあたっており、充実した専門研修が受けられることをお約束いたします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医6名，日本内科学会総合内科専門医14名 日本消化器病学会消化器専門医4名 日本肝臓学会肝臓専門医4名，日本循環器学会循環器専門医4名 日本腎臓学会腎臓専門医2名，日本呼吸器学会呼吸器専門医1名 日本糖尿病学会専門医２名 日本神経学会神経内科専門医1名，日本アレルギー学会専門医（内科）1名，ほか
外来・入院患者数	外来患者20,841名（1ヶ月平均） 入院患者1,241名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	13領域のうち， 13領域69疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	きわめて稀な疾患を除けば，内科領域のほぼすべての疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験でます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施 設日本神経学会専門医制度准教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 内分泌代謝科認定教育施設 など

厚生連高岡病院

1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •厚生連高岡病院常勤医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. •ハラスメント委員会が病院内に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. •敷地に隣接してふたば保育園があり，利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	•指導医は10名在籍しています（下記）. •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長），プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．CPC を定期的に開催（2023年度実績3回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（医師会症例カンファレンス，呼吸器疾患談話会， 高岡循環器セミナー，呉西循環器懇話会、高岡呼吸器病研究会，呉西消化器疾患談話会、呉西肝胆膵懇話会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します. •専門研修に必要な剖検を実施しています（実績：2022年度4体、2023年度1体）
3)診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても10分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）．70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修 できます（上記）. •専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年度4体, 2023年度1体）.
4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室などを整備しています. •臨床研究倫理審査委員会を設置し，定期的に開催しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	狩野 恵彦 【内科専攻医へのメッセージ】 厚生連高岡病院は，富山県高岡医療圏の中心的な急性期病院で，富山県西部唯一の三次救急病院、地域医療支援病院，また高岡医療圏地域がん診療連携拠点病院でもあり，高岡医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医10名，日本内科学会総合内科専門医13名 日本消化器病学会消化器専門医7名，日本肝臓病学会専門医2名、

	日本循環器学会循環器専門医6名，日本糖尿病学会専門医2名 日本腎臓病学会専門医1名，日本呼吸器学会呼吸器専門医2名 日本血液学会血液専門医1名，日本神経学会神経内科専門医1名， 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医2名，米国感染症内科専門医1名， 米国老年医学専門医1名、日本救急医学会救急科専門医5名，ほか
外来・入院患者数	外来患者名5,009（1ヶ月平均）　入院患者6,886名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

高岡市民病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 医学中央雑誌, UpToDate, および海外ジャーナルが閲覧できます. ・高岡市民病院医員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（市民病院事務局総務課総務担当）があります. ・ハラスメント委員会が高岡市役所に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, シャワー室, 当直室が整備されています.
2)専門研修プログラムの環境	·基幹施設として「高岡市民病院内科専門研修プログラム」を作成しており, 富山大学, 金沢大学、富山赤十字病院の内科専門医研修プログラムの連携施設となっています. ·内科指導医が10名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の 研修を管理し, 基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義 務付け, そのための時間的余裕を与えます. 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2023年度実績：5回）し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ·専門研修に必要な剖検を実施しています（実績：2022年度2体、2023年度4体） ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野（総合内科, 消化器, 循環器, 内分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 神経, アレルギー, 膠原病, 感染症および救急)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で 3 演題の学会発表をしています. その他、各専門領域で行われる研究会、講演会、学会に参加し、専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
指導責任者	大澤幸治 【内科専攻医へのメッセージ】 高岡市民病院は循環器、消化器、呼吸器、神経内科、腎臓、代謝疾患の専門病院であり, 連携施設として各専門疾患の診断と治療の基礎、専門的医療を研修でき、それぞれの疾患の専門家が指導します. また専門医療のみではなく, 主担当医として, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医10名、日本内科学会総合内科専門医7名 日本呼吸器学会専門医・指導医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医 1 名 日本腎臓学会専門医・指導医 1 名、日本透析医学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医1名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医1名 日本循環器学会専門医 2 名、日本神経学会専門医・指導医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名・指導医 2 名、日本肝臓学会専門医 1 名 日本消化器病学会専門医 3 名・指導医 1 名、 日本心身医学会心身医療「内科」専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者61,915名　入院患者49,308名

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に循環器，消化器、呼吸器，腎臓領域においては，より高度な専門技術も習得することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施 設日本呼吸器学会教育認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設

市立砺波総合病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な専従の司書が常駐する図書室とインターネット環境があります。 ・市立砺波総合病院任期付き常勤医師として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに対処する部署（総務課）があり、メンタルストレス対策プログラムを実施しています。 ・ハラスメント委員会が設置されており、専用ポストも設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が11 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義 務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス を定期的に参画し，専攻医に受 講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023年度実績 4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（砺波地区病診連携カンファレンス)を定期的に 開催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講 を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対応可能な体制があります。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、血液、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・内科学会認定内科教育病院であり専門研修に必要な剖検を行っています。 （実績：2022年度8体、2023年度7体）
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1 演題以上の学会 発表（2023年度 実績4演題）をしています.
指導責任者	白石 浩一 【内科専攻医へのメッセージ】 市立砺波総合病院は砺波市、小矢部市、南砺市からなる砺波医療圏の中核病院です。地域がん診療連携拠点病院、肝疾患診療拠点病院、災害拠点病院、へき地中核病院にもしてされています。内科には消化器、循環器、腎高血圧アレルギー、内分泌代謝、血液感染症の専門医がそれぞれ複数名在籍し、内科全般の領域において幅広く専門的医療を研修できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本血液学会専門医 2 名

外来・入院患者数	外来患者981 名（1 日平均） 入院患者380.2 名（1 日平均）
経験できる疾患群	13 領域のうち， 10 領域45 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に学会専門医が在籍する、消化器、循環器、内分泌、代謝、血液、および腎臓領域においてはより高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，地域包括ケア病棟も所有しており、超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携を通した地域包括ケアを経験できます。また、へき地中核病院でもあり、へき地医療の経験もできます。
学会認定施設（内科系）	日本甲状腺学会認定専門医施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本東洋医学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本医療機能評価機構 （審査体制区分 4 Ver.6.0）臨床研修病院指定など

富山赤十字病院

1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •日本赤十字社職員就業規則準則により医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. •ハラスメント規程が整備され、相談員が配置されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	•指導医が13名在籍しています. •内科専門研修プログラム研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け 、そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2023年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、ほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年度5体、2023年度4体）.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2023年度実績4演題）をしています.
指導責任者	川根隆志 【内科専攻医へのメッセージ】 富山赤十字病院は中規模病院であるため、診療科間の壁が低く、例えば循環器内科の研修中に他疾患症例があれば専門医の指導を受けながら、平行して研修を受けることが可能です。症例配分に関しても柔軟に対応することができます。また、富山医療圏はもとより近隣医療圏の連携施設等で地域医療にも貢献できる専門医の育成をします。加えて、二次救急輪番で救急診察をした症例は基本的に主担当医として受け持ってもらうことで、総合内科領域、感染症領域、救急領域の症例を十分に経験できるような教育に力を入れていきます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医13名，日本内科学会総合内科専門医12名 日本循環器学会循環器専門医3名，日本内分泌学会専門医4名 日本糖尿病学会専門医4名，日本透析医学会専門医1名， 日本消化器病学会消化器専門医3名，日本腎臓病学会専門医1名 日本血液学会血液専門医2名，日本肝臓学会専門医1名 日本リウマチ学会専門医1名，日本消化器内視鏡専門医2 名日本心血管インターベション治療学専門医1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者933名（1日平均） 入院患者365名（1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応し、地域に根ざした医療、病診・病病連携などを経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

黒部市民病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院であり，2024年度は基幹型8名の募集に対しマッチング者は8名でした. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります．また，医中誌，洋雑誌39誌，UpToDa teがネット上で閲覧が可能です. •黒部市常勤医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署があり，常勤の臨床心理士を配置しています . •セクハラ・パワハラ対策委員会が院内に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. •院内保育所があり，平日は20：00まで，土曜日・祝日は17：30まで利用可能です. •病院横に医師官舎があります.
2)専門研修プログラムの環境	・基幹施設として「黒部市民病院内科専門研修プログラム」を作成しており，富山大学附属病院以外に金沢大学附属病院と富山県立中央病院のプログラムの連携施設となっています. ・指導医は7名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会（連携施設，委員長：河岸由紀男呼吸器内科部長）を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2023年度実績9回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・JMECCを開催し，専攻医に専門研修1年もしくは2年までに1回受講を義務付け，その ための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年度11体，2023年度9体）.
4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室，シミュレーション室などを整備しています. •倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. •治験管理委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. •日本内科学会講演会あるいは同北陸地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	河岸 由紀男 【内科専攻医へのメッセージ】 黒部市民病院は，富山県新川医療圏の中心的な急性期病院です．富山大学附属病院の連携施設として内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医7名，日本内科学会総合内科専門医7名 日本消化器病学会消化器専門医3名，日本肝臓学会肝臓専門医3名， 日本循環器学会循環器専門医4名，日本糖尿病学会専門医2名 日本内分泌学会専門医1名，日本腎臓病学会専門医2名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名，日本血液学会血液専門医2名， 日本神経学会神経内科専門医1名，日本アレルギー学会専門医1名， 日本リウマチ学会専門医1名，ほか

外来・入院患者数	外来患者6,581名（1ヶ月平均）　入院患者282名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なも経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 など

労働者健康福祉機構　富山労災病院

1)専攻医の環境	•研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·**独立行政法人労働者健康福祉機構富山労災病院任期付常勤医師として労務環境が保障されています**. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（常勤産業医、総務課職員担当）があります. •監査・コンプライアンス室が労働者健康福祉機構本部に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています.
2)専門研修プログラムの環境	•指導医が8名在籍しています. •内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年度1体）.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち，特に、総合内科，循環器，呼吸器，消化器，腎臓，感染症，アレルギー，神経，糖尿病および代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	川﨑　聡 【内科専攻医へのメッセージ】 富山労災病院は魚津市唯一の総合病院で内科指導医は各領域毎に専門医を擁しており、連携施設として幅広く疾患を経験できます。PETセンターをはじめ最近機器も導入しており、common diseaseから専門医療まで幅広く研修できます。消化器に関しては各種内視鏡検査の手技、エコー手技の経験ができる他、急性期・慢性期の消化管・肝胆道疾患に対応できます。循環器に関しては急性期の虚血性心疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼吸器に関しては、感染症・肺癌・間質性肺炎・気管支喘息などの幅広い疾患を経験できる他、アスベスト関連疾患や塵肺症の症例数も多く、それぞれの疾患の専門医が指導できます。腎臓に関しては、緊急の血液浄化から慢性期の透析管理まで対応できます。また専門医療のみではなく，主担当医として，社会的背景・療養環境調整を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 8名，日本内科学会総合内科専門医5名， 日本循環器学会循環器専門医1名，日本呼吸器学会呼吸器専門医3名， 日本消化器病学会専門医3名，日本消化器内視鏡学会専門医2名， 日本肝臓病学会専門医1名，日本腎臓学会専門医1名， 日本神経学会専門医1名，日本糖尿病学会専門医1名， 日本アレルギー学会専門医（内科）2名， 日本高血圧学会専門医1名日本感染症学会指導医1名， 日本呼吸器内視鏡学会指導医1名 日本結核病学会指導医1名，日本病態栄養学会専門医1名， 日本臨床腫瘍学会暫定指導医1名，日本化学療法学会指導医1名 日本がん治療認定医機構認定医2名ほか

外来・入院患者数	外来患者　611.7　名（1ヶ月平均）　入院患者　224.0　名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある9領域，39疾患群の症例を幅広く経験することができます．

経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に消化器，循環器，呼吸器，腎臓，糖尿病・代謝領域においては，より高度な専門技術も習得することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験できます．
学会認定施設（内科系）	日本内科学会内科専門医教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本アレルギー学会教育施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医教育関連施設 日本消化器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 など

厚生連滑川病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・厚生連滑川病院常勤医師として労務環境が保障されています.
2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（滑川医師会病診連携カンファレンス）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち，総合内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会にて時々学会発表をしています．（1～2年に1回程度）
指導責任者	橋本直輝 【内科専攻医へのメッセージ】 厚生連滑川病院は、滑川市にある病床数２７９床の公的病院です。当院の常勤医師は26人と少ないですが、医局内の連携は良好で、中小病院の利点を生かした地域に根ざした診療を行っています。当院では、大病院のような豊富な症例があるわけではありませんが、循環器に関しては亜急性期の虚血性疾患から，慢性期の心不全の管理まで対応でき、呼吸器疾患に関しては，感染症，肺癌など腫瘍性疾患，間質性肺疾患，気管支喘息などの疾患などにも、呼吸器専門外来の先生と連携し対応しています。また、消化器や肝臓疾患、糖尿病や腎臓病も一部の症例を除き、それぞれの専門医により一般的な対応は十分行える体制であります。当院では、以上のように主担当医として，専門も含め幅広く内科疾患を経験でき、専門医をめざせるような教育に力をいれていきますので、宜しくお願いします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医6名、日本循環器学会循環器専門医 2名、 日本糖尿病学会専門医 1名、日本腎臓学会専門医 1名、日本消化器病学会専門医 1名ほか
外来・入院患者数	外来患者130名（1ヶ月内科平均） 入院患者80名（1ヶ月内科平均）
経験できる疾患群	症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本アレルギー学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

富山県済生会高岡病院

1)専攻医の環境	•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •富山県済生会高岡病院の常勤医師として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処するため、産業医を配置しています。 ・ハラスメント委員会を設置し、職員が個人として尊重され、快適に働くことができる就業環境を確保しています。 •法人本部に監査指導室を設置し、全体で法令遵守に望んでいます。 **·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。** •事業所内保育の設置を検討しています。
2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が13名在籍しています. •臨床研修管理委員会において、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 •基幹病院が開催する研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 **·CPC を定期的に開催（2022年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。** ・•地域参加型のカンファレンス（済生会高岡病院症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2021年度4体，2022年度1体）.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、総合内科、循環器、消化器、内分泌、代謝、呼吸器および腎臓の分野で、定常的に多彩な症例を経験することが可能です。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	鈴木崇之 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は高岡医療圏の中核病院の一つとして、地域患者さんとの相互信頼に基づいた人にやさしい医療を提供しながら、急性期医療と回復期医療の充実を図っています。内科では、主に循環器、消化器、内分泌・代謝、呼吸器、腎臓・血液浄化を専門とした診療を行っています。 循環器分野では、冠動脈の高度の狭窄病変に対してはPCIを行い、予後とQOLの向上に向けた治療を積極的に行っています。 消化器分野では、各種内視鏡検査に加えて、早期胃癌の内視鏡的治療等も積極的に行い、迅速な診断、期を逃さない治療を行っています。 内分泌・代謝分野では、毎日の糖尿病外来や糖尿病教育入院に注力するとともに、甲状腺疾患に対しての必要な負荷試験や画像診断による治療を行っています。 呼吸器分野では、呼吸状態に応じた在宅酸素療法や持続陽圧鼻マスクを用いた治療を行い、腫瘍性疾患に対しては、腫瘍科専門医との連携のもと、気管支鏡やCTガイド下生検による腫瘍の診断を基本として、手術療法、化学療法、放射線療法を用いた集学的治療による予後改善を目指す治療を行っています。 腎臓・血液浄化分野では、慢性腎不全に対する血液透析や血液ろ過透析、手術後の急性腎不全に対する血液透析やうっ血性心不全に対する持続緩徐式血液ろ過及び血液ろ過透析、旅行中の患者さんへの臨時透析までと幅広く対応しています。 当院でも内科領域は多岐にわたりますが、専門医が関わる専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育にあたります。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 8名、日本消化器病学会指導医 1 名 日本消化器病学会専門医 1名、日本循環器学会循環器専門医2名 日本糖尿病学会研修指導医 1名、日本腎臓学会指導医 1名

	日本腎臓学会専門医 2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,138名（1ヶ月平均実数）　入院患者 127名（1ヶ月平均実数）
経験できる疾患群	協力病院として担当する分野において、内科専攻医研修で求められる疾患群の症例数を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、及び治療方針決定を指導医とともに、また指導医の監督下で行うことができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、回復期医療を提供する病院として、地域包括ケアシステムを積極的に担っていることから、地域に根ざした医療や病診・病病連携を経験できます。また、社会福祉法人恩賜財団済生会の病院として取り組んでいる、生活困窮者への医療による援助を目的とした事業にも参加できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本呼吸器学会関連施設 など

富山県済生会富山病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室、自習室とインターネット環境があります. ・富山県済生会富山期限付常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・監査・コンプライアンス室が済生会本部に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています. ・医師臨床研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（内科症例検討会、消化器カンファランス、循環器症例検討会，病診連携の会、救急事例検討会）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2021年度2体，2022年度0体）.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち，消化器，循環器，代謝，腎臓、呼吸器、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	亀山智樹 【内科専攻医へのメッセージ】 済生会富山病院は富山医療圏の中核病院のひとつで、規模は小さいながら、心筋梗塞、脳卒中の24時間265日受け入れを目指して血管病対策を重点項目として取り組んでいます。また、富山市北部地区の中核病院として消化器、循環器、糖尿病、腎臓、呼吸器の専門医を擁し病・病、病・診連携にも力を入れています。各専門領域の研修に加え、近未来の日本の医療環境に対応できる、救急医療、地域医療の研修、さらには主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　6名，日本内科学会総合内科専門医　7名 日本消化器病学会消化器専門医2名，日本循環器学会循環器専門医4名， 日本腎臓学会専門医2名、日本呼吸器学会専門医1名、日本老年医学会専門医1名、 日本脳卒中学会専門医1名、日本不整脈学会専門医1名、日本肝臓学会専門医1名、 日本消化器内視鏡学会専門医2名、日本透析医学会専門医1名
外来・入院患者数	外来患者　4535　名（1ヶ月平均）　入院患者　180　名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	コモンディジースのみならず稀な疾患も含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある7領域，46疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に循環器、消化器領域においては，より高度な専門技術も習得することができます
経験できる地域医療・診療連携	富山市北部地域の地域中核病院として、急性期医療はもとより，これからの超高齢社会を見据えた，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会認定施設　など

かみいち総合病院

1)専攻医の環境	•研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •自治体病院常勤医師（公務員）として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. •女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	•指導医が5名在籍しています. •内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療安全講習会・感染対策講習会を定期的に複数回開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス・研究会に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2021年度2体）.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，内分泌、および代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022年度実績 1演題）をしています.
指導責任者	佐藤幸浩 【内科専攻医へのメッセージ】 かみいち総合病院は、富山市の東に隣接する中新川郡上市町の自治体病院であり、富山医療圏に属しています。当院は、地域に密着した基幹病院として、「住民が安心して地域で暮らし続けるための医療の砦として私たちの病院が存在する」を理念とし、内科一般および専門外来の充実や，健診・ドックの充実に努めています。また、病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない，各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し、治療の方向性・在宅療養の準備を進め，外来・訪問診療担当医師・スタッフへとつないでいます. 富山大学附属病院（基幹施設）の内科専門研修プログラム連携施設である当院での研修を通して、疾患のみならず、社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践し、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成をめざします。「全身を診る医療」，「支える医療」，「医療と介護の連携」、「生活復帰の視点を中心にした医療」「地域に密着した在宅医療」、を基本に、生活復帰のための急性期医療や急性期医療後の対応，在宅医療からの亜急性の対応，神経難病等の慢性期医療の対応，高齢者慢性疾患や癌の終末期医療の対応等を研修します。また，訪問診療も担当し、高齢者医療のゴールである在宅医療、地域包括ケアシステム」を実践する研修になると考えます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　5名，日本内科学会総合内科専門医　4 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 1名， 日本糖尿病学会専門医　2 名，日本内分泌学会専門医 1 名， 日本老年医学会専門医　1 名，日本透析医学会専門医 1 名，
外来・入院患者数	外来患者　9800　名（1 ヶ月平均）　入院患者　180　名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患をのぞき，研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に消化器および代謝領域においては，より高度な専門技術・知識も習得することができます
経験できる地域医療・診療連携	上市町は高齢者人口がすでに 30%をこえており、超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診連携・病病連携などを経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療後期研修プログラム認定施設 総合診療後期研修プログラム認定施設

	日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本老年医学会認定老年病専門医制度認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本病態栄養学会認定施設 など

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）高岡ふしき病院

1)専攻医の環境	•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •独立行政法人地域医療機能推進機構就業規則に則り労務環境が保障されています。 •メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務企画課）があります。 •監査・コンプライアンスが整備されています。 •女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 •院内に病児保育室があり、お子様が病気の際には利用することができます。
2)専門研修プログラムの環境	•指導医が6名在籍しています。 •内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で実施する専攻医研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 •医療安全、感染対策講習会、倫理委員会を定期的に開催し、専攻医にも受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスである登録医症例検討会を毎月第 2 火曜日に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器、内分泌・代謝（糖尿病）、消化器およびリウマチ・膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022年度実績 1 演題）をしています。 ・日本糖尿病学会、日本呼吸器学会、日本循環器学会に学会発表をしています。
指導責任者	篠田千恵 【内科専攻医へのメッセージ】 JCHO 高岡ふしき病院は糖尿病センターを持ち、また、循環器および呼吸器疾患の診断と治療の基礎から、より専門的な医療まで幅広く研修できます。糖尿病に関しては、予防医療としての健診における指導、教育入院から合併症まで幅広い研修を実施できます。また、日本糖尿病学会認定教育施設となっており、療養指導室も併設していますのでチーム医療を学ぶこともできます。 循環器に関して虚血性心疾患は近隣の循環器専門施設と連携して対応しています。また心不全の管理は急性期から慢性期まで行い、特に心大血管リハビリテーションを重んじて多職種で行っています。呼吸器疾患に関しては、感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患について幅広く対応しています。その他、消化器疾患、リウマチ・膠原病など幅広い疾患に関して指導できます。また消化器内視鏡検査については年間 5,045 件と症例も豊富です。さらに専門医療のみではなく、主治医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定医 7名、　日本内科学会総合内科専門医 4名 日本糖尿病学会専門医 2名、　日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本消化器学会専門医 2名、　日本呼吸器学会指導医 1 名 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本肝臓学会専門医　1 名 日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本内分泌学会専門医 2名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 5,000 名（1 ヶ月平均）、 入院患者 150 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある領域、疾患群の症例を幅広く経験することができます。 さらに健康管理センターを併設しており、予防医療としての健診での指導、教育入院から合併症まで幅広く研修ができます。

経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。また内科領域においてのチーム医療を習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	病診・病病連携（地域連携パス）、介護施設連携による入院患者への医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域医療としての訪問診療の実施に加え、訪問看護ステーションを併設しており地域包括ケアシステムの実際を経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設病院 など

射水市民病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・医局内に研修医専用の部屋と 24 時間利用可能なシャワー室があります。 ・研修医用の当直室も用意してあります。
2)専門研修プログラムの環境	・内科常勤医が 6 名在籍しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催しています。 ・ＣＰＣを定期的に開催しています。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で研修が可能な症例数を診察しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会地方会、日本循環器学会総会および地方会に年間で計 1 題以上の学会発表をしています。
指導責任者	原田大輔 【内科専攻医へのメッセージ】 射水市民病院は　6 名の常勤医が内科全般をカバーし、なかでも特に循環器診療に力をいれている病院です。循環器に関しては、急性期の虚血性疾患への対応から、慢性期の心臓リハビリテーション更に遠隔医療を利用した重症心不全の在宅管理まで幅広く対応しています。研修医の先生にももちろん全て経験していただく予定です。その他に、血液専門医も在籍していますので、入院・外来を通じた疾患治療の経験をできるところが特徴です
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　　1名，日本内科学会総合内科専門医　4名 日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医　1名 日本血液学会専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者　1,417 名（1 ヶ月平均）　入院患者　167 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	13 領域のうち，11 領域の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能、特に循環器領域の高度な専門技術を習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域包括病棟での診療、訪問診療、遠隔医療を利用した心不全患者さんの在宅管理を通して地域に根ざした医療を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 など

南砺市民病院

1)専攻医の環境	・当院は平成２１年度より初期臨床研修制度における基幹型研修指定病院となっています。 ・医局内に共用のインターネット接続端末が用意されています。また、個人所有端末を無線接続してインターネットを利用することも可能です。 ・一定の研修期間を越える場合は常勤医師として労務環境が保障されます。 ・定期的に指導医と面談する機会を設け、必要に応じて基幹施設とメンタルストレスに対し適切な対処を図ります。 ・ハラスメント行為についての相談方法が定められており、衛生委員会が対応するよう取扱いが整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所を開設しており、利用することが可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 3名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります ・医療倫理・医療安全・感染対策に関する職員講習会を定期的に開催しており、専攻医が参加するために勤務に配慮を行っています。 ・基幹施設が開催する研修施設群合同カンファレンスに参加するために、専攻医の勤務に配慮を行っています。 ・院内にて CRC が開催される際には専攻医にも参加を求めています。また当院での研修期間内に基幹施設にて　CRC　が開催される場合には参加できるよう勤務に配慮を行っています。 ・地域の抱える問題について話し合い取り組みを進める住民参加の「南砺の地域医療を守り育てる会」や医師会との情報共有と円滑な病診連携を図るため開催されている「南砺連携の会」へ参加するために、専攻医の勤務に配慮を行っています。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科 13 領域のうち総合内科・消化器・循環器・代謝・腎臓・呼吸器・血液・神経・感染症・救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	当院所属医師により日本内科学会講演会または同地方会において年間で計 1 演題以上の学会発表を行っています。
指導責任者	品川俊治 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は南砺市の医療を担う中核病院であり、連携施設として肺炎、脳卒中、心不全などのcommon disease から専門的疾患（特に呼吸器、血液、肝疾患、糖尿病など）救急疾患まで広く深く、EBM に基づいた確かな医療を研修する事ができます。また当地は地域包括ケアを早くから実践しており、住民に寄りそった暖かな医療を提供できる医師、主治医として全人的な医療を実現、指導出来る専門医を育てるべく教育しています。また、法律や倫理の専門家を交えた倫理コンサルテーション委員会を立ちあげ、臨床的には解決の困難な、倫理的、社会的問題について、患者さんの自立意志を尊重した、御本人にとってより良い答えが出せるように、多職種で検討が出来る機会を日常的に提供しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3 名，日本内科学会総合内科専門医　8名 日本消化器病学会消化器病専門医　1 名，日本呼吸器学会呼吸医専門医 1 名， 日本糖尿病学会専門医1名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名， 日本肝臓学会専門医　1 名，日本血液学会専門医　1 名 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医　2 名
外来・入院患者数 （内科）	外来患者　3,219 名（1 ヶ月平均）　入院患者　110 名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	稀な疾患を含めて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、10 領域 51 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきなが

技能	幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	県内でも特に高齢化の進む地域における中核病院として、急性期の初期対応から回復期を経ての在宅復帰まで担うことができ、また近隣の療養型病院や同施設内にある訪問看護ステーションなどとの連携により進んだ地域医療にふれることで、全人的医療を経験することができます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本プライマリ・ケア連合学会研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼動施設実地修練認定教育施設 地域包括医療・ケア認定施設 など

北陸中央病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・当院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（医師、臨床心理士常駐）があります. ・医療安全に配慮し教育指導する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ・院内に保育所があり，専攻医家族は利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し， 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2021年度実績 2 回）し，専攻医に参加を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に参加を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，内分泌代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。地域に密着した医療で介護、地域医療関連が特に学べます。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022年度実績 1 演題）をしています.
指導責任者	武藤寿生 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は地域に密着したであり，連携施設と小矢部市で唯一の公的病院であります。特に内分泌、代謝、糖尿病については専門的医療を研修できます．また専門医療のみではなく，主担当医として社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています．内科カンファレンスも毎週行われますが、必要なら 24 時間いつでもサポートされます。そういった気軽に相談できる環境も自慢です。 女性の方も育児中の方も研修できるように院内保育園を完備し、必要な休暇も取得 できます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　5 名，日本内科学会総合内科専門医　5名 日本糖尿病学会認定医 3 名、指導医 2 名
外来・入院患者数	外来患者　408　名（1 ヶ月平均）　入院患者　137　　名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	特に内分泌代謝領域の症例は多いです。
経験できる技術・技能	プライマリケア、地域医療、医療安全
経験できる地域医療・診療連携	MSW、介護職との連携も含めたチーム医療、周辺開業医との連携
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本糖尿病学会認定施設 など

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

1)専攻医の環境	研修に必要な図書室、インターネット環境（有線）があります。 富山県リハビリテーション病院として労務環境が保証されています。 敷地内に院内保育所があり利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	医療安全、感染対策、医療倫理講習会を定期的に開催し、専攻医にも受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修医合同環カンファレンスを定期的に開催、必要時富山大学総合診療部等とのネットカンファレンスを提案します。
3)診療経験の環境	リハビリ病院という特性から内科系常勤医は少ないですが、常勤で総合内科専門医、神経内科専門医、内分泌代謝科専門医、糖尿病専門医、また非常勤の専門外来として循環器内科、呼吸器内科、腎臓・高血圧内科等それぞれ学会認定専門医が毎週来院しており、常に常に各専門医にコンサルト、最新知見を学ぶことができます。また当院は日本静脈経腸栄養学会 実地修練認定教育施設であり病態に沿った輸液、栄養療法の基本を学ぶことができます。
4)学術活動の環境	日本内科学会学術集会、各地方会、各専門学会総会、地方会などでの発表を積極的に推奨、指導可能です。
指導責任者	小西 宏史 【内科専攻医へのメッセージ】 脳梗塞、外傷疾患、廃用症候群等リハビリを必要とする入院患者のほとんどが内科的疾患を伴っています。さらに低栄養、嚥下障害、高齢、感染症併発等併発時の適切な診断と治療（輸液、栄養管理、感染症治療、血糖管理など）、さらには退院の方向性を社会的側面からも考え良き方向に患者を導く力をつけることができます。急性期病院では学べない回復期の医療と全人的考え方の基本を身につけていただける病院です。
指導医数 （常勤医）	＜内科領域13分野＞ ・常勤 日本内科学会指導医　2 名，日本内科学会総合内科専門医　2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本内分泌学会内分泌専門医 1名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 ・非常勤 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名 日本循環器学会専門医 1 名 ＜内科領域13分野以外＞ 日本臨床栄養代謝学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名 日本精神神経学会 1 名 日本人間ドック学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名　他
外来・入院患者数 (除く小児)	外来患者　　2140 名（1 ヶ月平均）入院患者 延べ 4830 名（1 ヶ月平均）新規入院 160 名/180 床（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	神経内科領域、内分泌領域など極めて稀な疾患を含めて幅広い内科関連症例を学ぶことができます。また低栄養、高齢、障害を伴う内科疾患患者の治療、ケアを本格的に学ぶことができます。
経験できる技術・技能	超高齢患者、身体、高次脳障害患者に対する輸液、栄養療法、感染予防や治療法、胃瘻管理、糖尿病管理等を深く学ぶことができます。 また神経内科、整形外科、脳外科が充実しており診断から治療へのプロセスをプロフェッショナルに学ぶことができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院には相談支援員が多く活躍しています。急性期医療だけでなく超高齢社会に対応した社会福祉制度に基づく医療、福祉、介護の連携についても学ぶことができます。

学会認定施設 （内科系）	厚生労働省 臨床研修病院 日本神経学会　准教育施設 日本病態栄養学会 栄養管理・NST 実施施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会　NST 稼働施設 日本静脈経腸栄養学会 実地修練認定教育施設 日本糖尿病学会 教育施設 II（停止予定） ・その他 日本リハビリテーション医学会 研修施 設日本整形外科学会 研修施設 日本手外科学会 基幹研修病院 日本小児科学会　研修関連施設 日本小児神経学会 専門医研修関連施設 日本てんかん学会 研修施設 日本手外科学会　研修施設

富山西総合病院

1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があり、医中誌とMedical Online が利用できます。 ・医局に個別のデスクが割り当てられます。 ・病院内に職員食堂、カフェ、コンビニを備えています。 ・女性医師専用の当直室があり、シャワーを利用できます。 ・院内保育所が利用できます。 ・敷地内禁煙です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医（総合内科専門医）12名の他下記の通り各分野の専門医、指導医を擁します。 ・臨床研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・臨床倫理、医療安全、感染対策委員会を定期的に開催し、専攻医の受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌代謝、血液の6分野で定常的に症例を経験し常勤医による指導が受けられます。 ・画像診断については常勤放射線科医師の指導が受けられます。
4)学術活動の環境	内科系学会や研究会での発表を随時行っております。
指導責任者	山本　精一 【内科専攻医へのメッセージ】 私たちの医療法人藤聖会は1984年に設立し、1987年「八尾総合病院」を開設し、富山市南西部医療の中核を担って参りました。その後いくつかの老人保健施設や専門クリニックを開設しましたが、2018年2月に新たに当地区の地域医療を担うべく婦中町に154床の「富山西総合病院」を開院致しました。当法人はグループ病院、施設と合わせ急性期から地域包括ケア、回復期リハビリテーション、さらに老人保健施設からサービス付き高齢者向け住宅まで展開する様になりましたが、当院はその中核となる施設です。開院後新たに血管造影室、透析室を開設し、心血管造影や慢性血液透析治療を開始しました。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医　6名 日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘ･ｹｱ連合学会ﾌﾟﾗｲﾏﾘ･ｹｱ認定医・指導医 1名 日本循環器学会循環器専門医 2名 日本消化器学会消化器専門医・指導医1名 日本消化器内視鏡学会専門医 2名 日本糖尿病学会専門医・指導医　1名 日本血液学会専門医　1名
外来・入院患者数	外来患者平均1日280名、入院患者平均134名
経験できる疾患群	内科一般の幅広い疾患群が経験できます。特に専門医の在籍する循環器、消化器、プライマリ・ケア、糖尿病の分野では専門的な指導を受けることができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳に記載のあるうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、血液、救急の項目が経験できます。 ・心血管・末梢血管造影検査、心臓リハビリテーション、人工透析、上下消化管内視鏡検査及び内視鏡的治療、嚥下内視鏡検査、インスリンポンプ治療、皮下連続式グルコース測定
経験できる地域医療・診療連携	日本人の長寿高齢化に伴い超高齢患者が激増しています。その多くが配偶者ともども超高齢でともに認知症もまれでありません。認知症独居老人も増えています。外来ではもの忘れ外来を開いています。入院患者では認知症例が多く、しばしばせん妄を合併。認知症サポートチームが病棟ラウンドを行い、ケア介入しています。当院では高齢患者は入院時より退院後のケアパスを見据え多職種で退院支援を行っています。在宅療養困難な症例では退院後訪問看護、診療を行っております。 専攻医がこれらを経験、研修することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器学会認定施設

真生会富山病院

1)専攻医の環境	インターネットによる文献検索システムが整備されています 敷地内に保育所があり、専任の保育士が夜間もみてくれます。 女性医師が安心して勤務できるように、当直室、更衣室などが整備されています 。日本医療機能評価機構による認定を受けています。 臨床心理士を中心に、メンタルヘルスに適切に対処する部署があります 展望大浴場で日頃の疲れを癒やすことができます。 院内レストランでは一流シェフの料理を安価で提供しています。 職員による院内コンサート、職員旅行など福利活動が盛んです。
2)専門研修プログラムの環境	指導医が4名在籍しています。内科医 19名が勤務しています 病診連携カンファランスを月一回開催しています。 CPC を定期的に開催しています。 毎週、内科、消化器科、外科合同カンファランスを開催し、さらに、各専門分野でのカンファランスを行っています。 英文論文の抄読会を行っています。 内科部長による病棟回診は英語で症例提示をしています。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野全ての症例を経験でき、各分野の専門医の指導を受けることができます。 人工透析室を完備しており、専門医の指導を受けることができます。 気管支内視鏡、消化管内視鏡は常時研修可能です。
4)学術活動の環境	日本内科学会地方会には年間で１題以上の学会発表をしています。また、各専門分野においても、積極的に学会発表を行っています。予演会で多くの内科医のアドバイスを受けることができます。
指導責任者	刀塚俊起 【内科専攻医へのメッセージ】 **当院は、百床規模の病院ながら、一日外来数　800　名に達する県内有数の外来数を有します。一般病院における豊富な症例を経験することが出来ます。また当院は内科の全領域の専門医を有しており、専門的な治療をオールラウンドに経験することが出来ます。循環器、呼吸器、消化器のメジャーな疾患から、神経、血液、腎臓、膠原病、漢方まで専門的に学ぶことが出来ます。糖尿病においては、網膜症、腎症、あらゆる合併症のすべてを経験出来ます。また消化器疾患においては、診断、治療、内視鏡的手技、外科手術に至るまでトータルの治療過程を学ぶことが出来ます。当院は救急指定病院であり、救急患者についても、あらゆる疾患の経験ができます。症例のフィードバック、検討、また講義など教育に力を入れています。また、医療を行うにおいて重要なのは医療人としての人格形成です。当院では緩和ケアのみならず、あらゆる場面でのトータルケアを学ぶことが出来ます。**
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医4名，日本内科学会総合内科専門医8名 日本消化器病学会消化器専門医２名，日本肝臓学会専門医２名， 日本消化器内視鏡学会専門医２名，　日本消化管学会胃腸科専門医１名 日本透析医学会専門医１名,日本腎臓学会専門医１名,日本神経学会専門医２名， 日本糖尿病学会専門医１名,日本呼吸器学会専門医１名,日本血液学会専門医　１　名， 日本東洋医学会専門医１名
外来・入院患者数	外来患者　　14381　名（1ヶ月平均）　入院患者　338名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳にある９領域、３９疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	内科医に必要な手技はほとんど経験できます。心臓カテーテル検査の習得は提携病院の短期研修により可能です。 緩和医療チームに参加して研修ができます。 英語で質疑応答ができるようになります。中国からの留学医師が在籍しており、中国語の研修ができます。
経験できる地域医療・診療連携	希望者には在宅診療を行うことができます。他病院の症例検討会への参加、地域開業医の検討会に参加できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設,日本消化器内視鏡学会認定施設, 日本血液学会血液研修施設

あさひ総合病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・自治体病院として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります。 ・女性専攻医も安心して勤務できるよう更衣室、当直室、シャワー室が整備されています。 ・病院横に医師官舎があります。
2)専門研修プログラムの環境	・医療安全講習会、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・教育研修推進委員会が定期的に開催され、研修の管理も行っています。
3)診療経験の環境	・常勤医は少ないですが、カリキュラムに示す総合内科や膠原病の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。また、非常勤の専門外来として富山大学より、消化器、内分泌、代謝などの専門医が毎週来院しており、常に専門医にコンサルト、最新知見を学ぶことができます。
4)学術活動の環境	日本内科学会地方会などでの発表を積極的に推奨しています。
指導責任者	渡辺 哲郎 【内科専攻医へのメッセージ】 朝日町は富山県内で最も高齢化率が高く、今後ますます顕在化してくる人口減少・超高齢化社会での医療・介護の課題に私たちは先進的に真正面から取り組んでおり、急性期から在宅まで地域医療を支える中核病院として「高齢者医療の先進モデル病院」の実現を目指しています。 当院の役割は、「かかりつけ医」機能を有するとともに、新川医療圏における急性期から回復期医療、さらに在宅医療・介護を確保し、高齢化が進む医療需要に対応しつつ、医療・介護・保健・福祉と連携した包括的な地域医療を切れ目なく提供することです。 「住民の健康な生活を支えるための医療と介護を提供し、住民の幸せと地域の発展に貢献する」との理念に基づき、「生活を見すえた医療」を心がけ、地域の皆さまに愛され信頼される病院づくりに努めています。 具体的には①地域包括ケアの実践（本人が望む住まいで人生の最後まで自分らしく生活が送れるよう支援）②高齢者特有の疾患や状況に合わせた医療の提供③住民参加型の医療・介護の啓発と予防の推進（住民指導・参加による研修会や講演会、介護予防事業（フレイルチェック）等の開催）など医療・介護・予防の一体的な提供に努めています。 高齢者は、入院を契機に一気にＡＤＬが低下し容易に要介護状態に至ります。具体的な症例の主治医として患者さんを担当し、急性期医療やリハビリ治療の後 生活背景を見据えた退院後の在宅支援や介護の計画実施に関わることができます。また、訪問診療・看護・介護を通じて家族や地域の方々とも積極的にかかわる中で多職種連携の実践、コミュニケーション能力の向上にも繋げます。一人の患者さんを支え看守ることの必要性、重要性、難しさを実体験することが今後臨床医としての糧となると確信します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　1名、日本プライマリケア学会指導医1名、 日本東洋医学会認定指導医 1名、総合診療専門研修特任認定指導医 1名、 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者　8,705名（1ヶ月平均） 入院患者　209名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて希な疾患を除き、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	プライマリケアとして、身近な疾患から希な疾患まで幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	朝日町は、高齢者人口がすでに46％を超えており、超高齢社会に対応した、地域に根

	ざした医療、病病連携・病診連携などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	なし

国立病院機構 富山病院

1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネットの環境が施設内に整備されています。 ・医局に個別のデスクが割り当てられます。 ・常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するための部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室が整備されています。 ・敷地内は禁煙です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 1 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を専攻医へ義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスが開催される際には、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPCの受講を専攻医に義 務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスが開催される際には、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・指導医は少ないですが、診療科を超えて多彩な慢性疾患の症例を経験できます。 ・気管支内視鏡、消化管内視鏡の指導を受けることができます。
4)学術活動の環境	・各専門分野において、年間計 1 演題以上の学会発表を行っています。
指導責任者	河合 暦美 【内科専攻医へのメッセージ】 NHO富山病院は県内でも有数の結核病床を持ち、また神経難病や重症心身障害の患者さんの長期療養も行っています。他の病院ではなかなか診療することのない疾患や病態を経験することができます。低栄養、嚥下障害、呼吸障害、感染症など、長期療養中に発生する内科疾患も多彩であり、特殊な疾患のみならず一般的な病態の経験ももちろん可能です。 他科との垣根も低く、各専門医とも気軽に相談することができます。 診療のこと以外でも、研修する上で心配なことがあれば相談してください。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　1 名、感染症学会認定指導医　1 名
外来・入院患者数	外来患者　 784名（1 ヶ月平均）新規入院患者 67名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	まれな疾患を除き、高齢者でみられる疾患を幅広く経験することができます。 とくに肺結核、神経難病、重症心身障害の長期療養を行っている患者さんなど、急性期病院ではなかなか経験できない疾患の患者さんが多くいらっしゃいます。 また地域に住む方々を中心に外来診療も行っています。外来での身近な疾患なども診療することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院を最期の場として考え過ごしておられる患者さんもいらっしゃいます。積極的にACPカンファレンスを行っております。
学会認定施設 （内科系）	なし

三井記念病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・三井記念病院有期職員（常勤医師）として労働環境が保証されます ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科産業医）があります ・ハラスメントを取り扱う委員会があります ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休息室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています ・提携した保育所があり、利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医は 29 名在籍しています ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者;副院長）、プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）が基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修部が設置されています ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医の受講を義務付け 、そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・CPC を開催（2023年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修部が対応します
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年度15体、2023年度12体）
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室やインターネット環境を整備しています ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています ・日本内科学会講演会あるいは同地方回に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています
指導責任者	五十川 陽洋 【内科専攻医へのメッセージ】 過去に数多くの内科臨床医と臨床研究者を育成してきました。その成果として現在大学教官に多くの人材を輩出しています。中規模の病院ではありますが、海外を含めた学会活動や論文発表を推進することで最新の医療の実践を心がけています。グローバルに活躍できる人材育成を目指しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 29名 日本内科学会総合内科専門医 35名 日本消化器学会消化器病専門医 2名 日本循環器学会循環器専門医 7名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名 日本感染症学会感染症専門医 1 名 日本内分泌学会内分泌専門医 1 名

外来・入院患者数	外来患者　9,541 名（1 ヶ月平均）　入院患者 497 名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診･病病連携なども経験出来ます
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会認定施設 日本リウマチ学会認定施設 日本透析医学会認定施設日 本神経学会准教育施設 日本呼吸器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施 設日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会専門医教育施設 日本集中治療医学会認定集中治療専門医研修施設(*CICU のみ) 日本脈管学会認定研修指定施設 日本超音波医学会専門医研修施設 など

国立国際医療研究センター病院（NCGM 病院）

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・国立研究開発法人非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部労務管理室長担当）があります. ・「セクシュアル・ハラスメントの防等に関する規程」が定められており、ハラスメント防止対策委員会も院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，当直室などが整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医は18名在籍しています（下記）. 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医療教育部を設置. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス(内科・総合診療科・救急)を定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2023年度実績 5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（糖尿病週間・世界糖尿病デー市民公開講座，新宿区練馬区合同消化器カンファレンス，城西循環器研究会，若松河田呼吸器研究会，吸入指導勉強会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
3)診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・　70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ・　専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年37体、2023年26体）.
4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・ 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3 演題以上の学会発表（2023年度実績14演題）をしています.
指導責任者	放生雅章 【内科専攻医へのメッセージ】 充実した卒後 2 年間の臨床研修を終え、内科専門研修に入る皆さんにとって、医師として成長する上でも専門医を目指す上でも専門研修の 3 年間は臨床研修の 2 年間以上に重要な期間と思われます。さらに多くの症例を経験し、深く学習し、種々の技術を習得するとともに、基幹施設である当院を離れて様々な役割を果たしている地域の医療機関で働くことは生涯の大きな財産となることでしょう。指導医の下ではあっても自分で判断し、行動し、ナショナルセンター、地域の病院、海外の病院などで多彩な経験を積んで、立派な専門医となり、日本と世界の医療に貢献できる医師に成長して頂けたらと考えております。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医18名，日本内科学会総合内科専門医65名 日本消化器病学会専門医16 名，日本肝臓学会専門医5 名，

	日本循環器学会専門医6 名，日本内分泌学会専門医7 名， 日本糖尿病学会専門医6 名，日本腎臓学会専門医2 名， 日本呼吸器学会専門医9 名，日本血液学会専門医6 名， 日本神経学会専門医4 名，日本アレルギー学会専門医3 名， 日本リウマチ学会専門医5 名，日本感染症学会専門医10 名， 日本老年医学会専門医0 名，日本救急医学会専門医6 名
外来・入院患者数	内科外来患者19,152 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者783 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 分野，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診･病病連携なども経験出来ます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日 本血液学会認定研修施設日 本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 （日本内科学会が定める13領域のうち、日本老年医学会を除く12学会の教育施設認定を受けています） 日本輸血学会認定医制度指定施設 日 本透析医学会専門医制度認定施設 骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設 日 本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 など

東京都立駒込病院

1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。・東京都非常勤医師として労務環境が保障されている。・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課)がある。・ハラスメント相談窓口が庶務課に整備されている。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣 室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
2）専門研修プログラムの環境	・指導医が28 名在籍している(下記)。・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け 、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(2023年度実績：5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(地区医師会・駒込病院研修会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年10体、2023年10体）.
3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症の 9 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発を予定している。
指導責任者	大橋 一輝 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都立駒込病院は総合基盤を備えたがんと感染症を重視した病院であるとともに、東京都区中央部の 2 次救急病院でもあります。都立駒込病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 28 名、日本内科学会総合内科専門医 15名、 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本消化器内視鏡学会専門医 13 名、 日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、 日本透析医学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 9 名、 日本造血細胞移植学会専門医 4 名、日本アレルギー学会専門医(内科) 1 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 3 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医3 名、 日本臨床腫瘍学会指導医 1 名；暫定指導医 3 名、がん治療認定医機構指導医 33 名 、 日本プライマリケア関連学会専門医 1 名

外来・入院患者数	外来患者28918 名(1 ケ月平均)　入院患者1188 名(1 ケ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定内科専門医教育院 日本リウマチ学会教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導設 日本アレルギー学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本腎臓学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会認定医制度認定設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会モデル研修施設 日本プライマリケア関連学会認定医研修施 設日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本胆道学会指導施設 など

東京都済生会中央病院

1)専門医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（心の健康づくり相談室メンタルヘルスサポート）があります. ・ハラスメント対策が整備されています. ・女性専門医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 26 名在籍しています. ・内科専門医研修プログラム管理委員会（統括責任者，副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する内科専門医研修管理委員会を設置します．その事務局として人材育成センターが設置されています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2026 年度予定）し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ・CPC を定期的に開催（2023年度実績 5 回）し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（医師会と合同主催の講演会や研究会）を定期的に開催し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ・プログラムに所属する全専門医に JMECC 受講（2026 年度開催予定）を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に人材育成センターが対応します.
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 10 体，2023 年度 7体）を行っています.
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターなどを整備しています. ・倫理審査委員会を設置し，定期的に開催しています. ・臨床研究倫理審査委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.

指導責任者	プログラム統括責任者：河合 俊英 【内科専門医へのメッセージ】 東京都済生会中央病院は，東京都区中央部医療圏の中心的な急性期病院です．三次救急を行う救命センターもあり，病診連携を生かした地域連携病院として，大学病院では得られない豊富な症例を経験することができます．内科系プログラムは 30 年以上の歴史があり，すべての診療領域の内科研修を行い総合的な内科医として全人的医療を行える基礎の上に，さらにサブスペシャルティの専門医を目指す研修を行ってきました．現在では，このプログラムで研修された卒業生が，全国各地で専門医として，また地域診療を支える総合内科医として活躍しています．内科系研修は各診療科の主治医とチームを組み受持医として担当し，専修医・研修医が同じ病棟で常に交流しながら教えあうことで研修を行ってきました．指導する主治医は内科指導医，各サブスペシャルティの専門医，臨床指導医であり，また，東京都済生会中央病院のプログラムを経験した医師も多くいます．大学や研究施設とは異なり，臨床に特化した研修を行ってきています． さらにプログラムの最大の特徴としては，これまでの研修においても行ってきたように，生活支援を必要とする患者さんが入院する病棟（以前の民生病棟）で総合診療内科ローテーションを行い，さらにチーフレジデントを経験することにより，病 棟においては実務のリーダーとして，初期研修医の教育，コメディカルの指導を通じて，病棟運営にも参加することが可能です．この経験を通して，内科医としての総合力も身につけることは元より，内科専門医としての総仕上げを行うことが出来，他施設にはないユニークかつ魅力的なプログラムとなっています． 本プログラムでは，都区中央部医療圏の中心的な急性期病院である東京都済生会中央病院を基幹施設として，これまでのプログラムに加えて，さらに都区部医療圏，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は原則として，基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間になります．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります．

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 26 名，日本内科学会総合内科専門医 25 名， 日本消化器病学会消化器専門医 11 名，日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本糖尿病学会専門医 20 名，日本内分泌学会専門医 5 名， 日本腎臓病学会専門医 6 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名， 日本血液学会血液専門医 10 名，日本神経学会神経内科専門医 10 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，日本リウマチ 学会専門医 1 名， 日本感染症学会専門医 1 名(暫定指導医 1 名)， 日本肝臓学会肝臓病専門医 6 名，日本救急医学会救急科専門医 7 名，ほか
外来・入院患者数	内科外来患者数 11,200 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者数 7,093 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育認定病院 日本血液学会研修認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会認定教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本透析医学会専門医教育認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本老年医学会認定施設 日本認知症学会専門医教育施設　　日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設　　日本病院総合診療医学会認定施設 日本臨床検査医学会認定研修施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会指導医指定施設　　日本感染症学会研修施設 日本アレルギー学会準認定施設 など

東京女子医科大学附属足立医療センター

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・東京女子医科大学東医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・監査・コンプライアンス室が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 13名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し(2023年度実績1回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。剖検実績：2022年度3体、2023年度4体 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。全 70 疾患群について研修できます。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	小川 哲也 【内科専攻医へのメッセージ】 東京女子医科大学東医療センターは東京都区東北部医療圏の中心的な急性期病院であり、ほとんどの Subspecialty 領域専門医が在籍しながら、ひとつの内科として運営している点が最大の特色です。在宅医療から救急医療まで幅広く活躍できる内科専門医を育成しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13名、日本内科学会総合内科専門医 15名 日本消化器病学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本 腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本血液学会血液 専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 ほか
外来・入院患者数	外来患者2,893名（1ヶ月平均）　入院患者145名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本老年医学認定施設 日本胆道学会認定指導施設ステントグラフト実施施設 日本超音波医学会認定 超音波専門医制度研修施設 など

国家公務員共済組合連合会　虎の門病院

1)専門医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処出来るよう健康管理室があり産業医がいます. ・ハラスメントを取り扱う委員会があります.
2) 専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医は 56名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者;腎臓内科部長）、プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）が基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医学教育部が設置されています. ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医の受講を義務付けています. ・CPC を定期的に開催（2023年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付けます. ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催します. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けています. ・日本専門医機構による施設実地調査に医学教育部が対応します.
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年度11体、2023年度15体）
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室やインターネット環境を整備しています。図書室には専属の司書が在籍しており文献の取り寄せなど行います. ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています. ・治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方回に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています（2022年度実績11題）.
指導責任者	森　保道
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 56名、日本内科学会総合内科専門医 51名、 日本消化器学会消化器病専門医 17名、日本循環器学会循環器専門医 8名 、 日本内分泌学会専門医 6名、日本腎臓学会腎臓専門医 4名 、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6名、日本血液学会血液専門医 11名 、 日本神経学会神経内科専門医 5名、日本リウマチ学会リウマチ専門医3名 、 日本老年医学会老年病専門医 1名、日本肝臓学会肝臓専門医 7名
外来・入院患者数	外来患者延べ数（内科）：299,893人 /年退院患者数（内科）：9,224人/年
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます.
経験できる技術・技能	内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、内科専門医に必要な技術・技能を幅広く経験することができます.
経験できる地域医療診療連携	地域に密着した 2 つの連携施設における研修を必修とし、地域医療の実態を経験し、内科専門医として地域住民の健康増進に貢献する術の習得を目指します.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本血液学会認定医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設 日本胸部疾患学会認定医制度認定施設（内科・外科系） 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本リウマチ学会認定施設 日本形成外科学会認定医制度研修施設 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本人類遺伝学会臨床細胞遺伝学認定士制度研修施設 日本神経学会認定施設　　など

JCHO 東京山手メディカルセンター

1)専攻医の環境	· 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. · 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. · 当院任期付職員（レジデント）として労務環境が保障されています. · メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. · ハラスメント委員会が整備されています. · 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所はないが，専攻医が利用を希望した場合は，保育施設との提携も含め，専攻医が仕事と育児の両立をできるよう病院としてサポートします.
2)専門研修プログラムの環境	· 指導医が 28 名在籍しています（下記）. · 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. · 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 医療倫理 1回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. · 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. · CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. · 地域参加型のカンファレンス：医療連携講演会（2023 年度実績 12 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌・代謝，腎臓，呼吸器，血液，アレルギー，膠原病，感染症および救急の 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2020 年度実績1演題、2021年度実績 10演題、2022年度実績 8演題、2023年度実績 5演題）をしています.
指導責任者	笠井　昭吾 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科は総勢約 30 名の各臓器別専門領域医師で構成され、患者数 3000 名以上と国内屈指の診療実績を誇る炎症性腸疾患センターをはじめとして、各専門領域で多くの専門医を有し、それぞれの領域で高いレベルの医療を提供しています。そして、高い専門性を有しつつ、その中で「総合内科」として 1つの科にまとまっており、専門領域間の「垣根が低い」のではなく「垣根がない」チームワーク・総合力を持っています。スペシャリストが集まり、チームとして行う総合診療は、他の病院にはない、当院総合内科の大きな特徴です。総合内科として初診外来、救急診療、地域連携、研修医教育を行うとともに、地域医療・介護機関と連携し地域包括ケアの実践と、総合医マインドを持った研修医の育成に努めています。東京の中心、新宿で 60 年以上の長い歴史で培ってきた地域医療機関との連携を生かした、「地域密着型」の研修を行います。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 28 名，日本内科学会総合内科専門医 16 名， 日本消化器病学会消化器専門医 12 名，日本循環器学会循環器専門医 8 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 3 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 2名， 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本肝臓学会 4名，日本救急医学会救急科専門医 1 名， 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 99,737名（2023年度） 入院患者 3,255名（2023年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，61 疾患群（神経以外）の症例を経験することができます.
経験できる技術・技 能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．都市部ならではの「地域密着型の研修」を行ないます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本アレルギー学会認定準教育施 設日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施 設日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘｹｱ連合学会認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 エイズ治療拠点病院 東京都災害拠点病院 など

立川綜合病院

1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •医療法人 立川メディカルセンター常勤医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワ ー室，当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
2)専門研修プログラムの環境	•内科指導医が 18 名在籍しています（下記）. •内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療安全講習ならびに感染対策講習を定期的に開催 •ＣＰＣを定期的に開催（2022年度実績 3回） •救急診療検討会を定期的に開催これらについて、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2021年度3体、2022年度7体） •ロサンジェルス V.A.Hospital より講師を招聘し、専攻医に受講を義務付けるとともに、症例発表を行い、英語でのプレゼンテーションの指導を受けさせ、そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，腎臓，呼吸器，血液，神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022年度実績2演題）をしています.
指導責任者	高野弘基 【内科専攻医へのメッセージ】 立川綜合病院は新潟県の中越地域の中核 3 病院の 1 つとして救急および専門医療に貢献しております。特に心臓カテーテル件数県内 1 位，心臓血管手術件数全国 10 位と循環器の内科・外科の領域に際だった実績を有するのみならず、脳血管疾患に対する血管内治療や消化器センターでの内科・外科合同の医療体制を含め，内科系全般で地域医療に確固たる地位を築いております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18名，日本内科学会総合内科専門医 11名 日本消化器学会消化器専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名, 日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名, 日本血液学会血液専門医 1 名，日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名, 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 14000 名（1 ヶ月平均） 入院患者 790 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 6 領域，46 疾患 群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，医療法人立川メディカルセンター傘下の悠遊健康村病院で超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院, 日本臨床腫瘍学会認定研修施設, 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設,

	日本消化管学会認定胃腸科指導施設, 日本消化器病学会専門医制度認定施設, 日本呼吸器学会認定施設, 日本神経学会専門医制度認定教育関連施設, 日本がん治療認定医機構認定研修施設, 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設, 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会認定研修施設, 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設, 日本腎臓学会認定研修施設, 日本透析医学会専門医制度教育関連施設, 日本病理学会研修認定施設, 日本臨床細胞学会認定施設

新潟県立中央病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・新潟県職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。必要に応じて担当医が面談します。 ・ハラスメントに対する相談・苦情受付の体制として、新潟県の窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室等が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・通勤困難な場合は専用宿舎または借上げ住宅があります。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 16 名在籍しています。 ・施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し（2023年度実績 5回）、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス「臨床懇話会」を定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実態調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群すべてについて研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年 8 体、2023年 8体）。
4)学術活動の環境	・研修に必要な図書室やインターネット環境（電子ジャーナル）などを整備しています ・研修教育センターで学会ポスター作製の支援が受けられます。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	船越和博 【内科専攻医へのメッセージ】 上越医療圏 30 万の中核病院で、3 次患者の治療を引き受けています。診療可能な病態は、ほぼ網羅し治療を行っています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16名、日本内科学会総合内科専門医16名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 その他（日本救急医学会救急科専門医 1 名）

外来・入院患者数	外来患者 103,008名（年間総数） 入院患者 4,706名（年間総数）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある疾患群の症例すべてを経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	他院、診療所からの紹介、逆紹介を通じて、病診連携の実際を経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育病院 日本血液学会認定医制度研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設
学会認定施設（その他）	日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

上越総合病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・新潟県厚生連上越総合病院の臨時常勤医師として労働環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・コンプライアンス委員会が院内に整備されています。 ・女性医師のための子育て支援の助成システムがあります。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医は11名在籍しています。 ・既存の臨床研修センターにおいて、専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・専攻医に研修施設群合同カンファレンスの受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023年実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器、消化器、代謝（糖尿病）、腎臓、神経、アレルギー及び救急の分野で定常的に専門医研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2023年度4体）。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています(2023年度実績 6題)
指導責任者	篭島　充 【内科専攻医へのメッセージ】 「経験のできる疾患群」について研修修了基準を達成するだけの症例を十分確保できます。総合診療科もあるため、総合内科（特にⅠ.Ⅱ）の監修を補完することが可能です。どの診療科も大所帯ではないため、指導医とマンツーマンに近い状態で研修ができます。臨床研修や教育に力を入れており（例えば臨床研修指導医講習会を自院で開催しています）、教育マインド豊かな指導医と共に充実した研修の日々を送ることができます
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11名　　日本内科学会総合内科専門医14名 日本消化器病学会消化器専門医 2名 日本循環器学会循環器専門医　2名 日本腎臓学会腎臓専門医 １名、 日本神経内科学会神経内科専門医2名 日本アレルギー学会アレルギー専門医 １名
外来・入院患者数 （内科系）	外来患者　４，８３０名（１ヶ月平均）　入院患者　３２７名（１ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて１３領域のうち，７０疾患群の症例を経験することができます。但し、内分泌・代謝（DM を除く）、血液、膠原病及び類縁疾患、感染症は専門医の常勤がないため、経験不可の項目もある）

経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に心臓カテーテル検査、内視鏡検査（上部・下部）気管支鏡検査、その他各種の手技（気管挿管、CV ライン挿入、胸腔穿刺、腹腔穿刺など）を習得し、一部の治療手技（ペースメーカー植込み等）についても機会を与えます 。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育連携病院 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会関連施設 日本循環器専門医研修関連施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会研修関連施設日 本神経内科学会准教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日 本アレルギー学会准教育施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 など

糸魚川総合病院

1)専攻医の環境	•研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •適切な労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署があります. •ハラスメント委員会が整備されています. 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています.
2)専門研修プログラムの環境	•指導医が6名在籍しています. •内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •定期的に開催される研修施設群合同カンファレンスに参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催します（2022年実績1回）。剖検（2022年度実績 1 体）
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科（一般，高齢者，腫瘍），消化器，循環器，代謝，呼吸器，血液，および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	松木　晃 【内科専攻医へのメッセージ】 糸魚川総合病院は人口約 5 万人の糸魚川市に唯一存在する総合病院であり、救急要請件数のうち約 90％が当院へ搬送されるため，各領域の疾患群をほぼ網羅して経験できます．なかでも，消化器疾患は外科医との連携によって診断から治療に至るまで当院で完結できる体制を執っています．循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から慢性期の心不全の管理まで対応できるチーム医療を実践しています．専従医が常勤する腎臓内科では、慢性腎不全のみならず急性腎障害にも幅広く対応します．その他の呼吸器，血液，代謝，膠原病領域も外部非常勤医による指導の下で一貫した医療を経験できます. 地域の特性として，複数の疾患を併せ持つ高齢者を診療する機会が多く，そのため専門的医療に加えて総合的医療の素養が培われ，主担当医として社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力を入れています．さらに ER 当番として週 1 回の業務が義務付けられ、初期研修で習得した救急医としての経験が生かされます．定期的に内科合同カンファレンスが開催され，各領域の抄読会に参加します．また，週 1 回開催される全診療科合同勉強会に参加し，内科のみにとどまらない総合診療研修が可能な環境が整っていることが当院の特色です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　6名，日本内科学会総合内科専門医4名， 日本消化器病学会消化器専門医　5名，日本肝臓学会消化器専門医　4名， 日本循環器学会循環器専門医　2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者　5,768 名（1 ヶ月平均），入院患者　191 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域，53 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に消化器および循環器領域においては，より高度な専門技術も習得することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応し地域に根ざした医療，そして病診・病院連携などを経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度　教育関連病院 日本消化器病学会 認定施設 日本肝臓学会 認定施設 日本消化器内視鏡学会　指導施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 教育関連施設 日本循環器学会　循環器専門医研修関連施設 など

社会医療法人財団慈泉会 相澤病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・相澤病院任期付常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントや人間関係、職場環境の問題点を抽出し解決する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラム環境	・指導医が31名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年度9体、2023年度6体） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を奨励し、そのための時間的余裕を与えます。 ・Subspecialty 並行研修を行う場合には、より専門性の高いカンファランスへの参加も可能です。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、血液以外の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。膠原病の症例数は多くありませんが、各診療科で経験できます。
4)学術活動の環境	専攻医は日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2023年度実績6演題）をしています。
指導責任者	新倉則和 【内科専攻医へのメッセージ】 相澤病院は長野県の松本二次医療圏において、急性期医療を担う地域の中核病院であり、「救命救急センター」「地域医療支援病院」「地域がん診療連携拠点病院」でもあります。入院患者の主体は救急患者や比較的緊急性の高い患者であり、高齢者で代表されるように、多疾患を持ち社会的に多くの問題点を抱えた患者が多いことが特徴です。救命救急センターや各診療科で初期診療を担当する医師は総合内科的な技量が必要であり、複数の問題点を適切に把握して必要な治療の種類と緊急性について判断し順位付けを行うことが求められます。専門科的治療への移行はスムーズに行う必要があり、各専門科の垣根をこえたチーム医療が求められます。当院での研修の特徴は、救命救急センターや各診療科での初期診療から担当することにあります。平成28年度から新設する「救急総合内科」では、内科系救急患者の診療を研修する場となります。救急外来で症例を指導医とともに診て、症例によっては救急総合内科病棟で引き続いて入院も担当します。各専門科外来では紹介患者が中心ですが、初期診療を指導医とともに行い、その後の入院診療を担当します。入院患者や通院患者の診療に携わるには、「病気をみる」だけでなく「人間としての患者をみる」ことが大切です。それには患者の人格や歴史、家族と社会環境、医療サービスの状況などを把握しなければなりません。医師と多職種のコメディカルスタッフが情報を共有し問題点の解決方法を検討するチーム医療が必須です。当院では、定期的なカンファランスと特別な問題が発生した時の対応系統が作られており、研修医

	は担当医として学んでいきます。相澤病院には医学研修センターがあり、個々の研修医の生活から研修状況をみており、研修医は安心して研修に励むことができます。意欲をもって来ていただければ相澤病院の内科専門研修で内科医師としての基礎を築くことができると確信しています。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　31名、日本内科学会総合内科専門医　19名 日本循環器学会循環器専門医 3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、 日本糖尿病学会専門医 2名、日本消化器病学会消化器専門医 6名、 日本神経学会神経専門医　3名、ほか
外来・新入院患者数	外来患者17890名（1ヶ月平均）　新入院患者1033名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある11領域、65疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。Subspecialtyの並行研修の場合には、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本認知症学会教育施設 日本脳卒中学会専門医制度研修教育施設 など

飯山赤十字病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルヘルスの適切に対処する部署（産業保健師）があります。 ・休憩室、更衣室、当直室、シャワー室が整備されています。
2)専門研修プログラムの環境	•指導医が 3名在籍しています。 ・医療安全、感染対策講習会等を定期的に開催しています。 ・教育研修推進委員会が定期的に開催され、研修の管理も行っています。
3)診療経験の環境	内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器内科の分野で専門研修が可能な症例数 を診察しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会地方会などでの発表を積極的に推奨しています。
指導責任者	渡邉 貴之 【内科専攻医へのメッセージ】 飯山赤十字病院は、一般病棟 240 床、療養病床 44 床のケアミックス型病院です訪問看護にも力を入れています。また、信州大学と伊勢赤十字病院の研修医を地域医療の研修に受け入れており、地域医療に関しては充実した研修が受けられます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3 名,　日本内科学会総合内科専門医 3名 日本消化器病学会消化器病専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者　10,468 名（1 ヶ月平均）　入院患者　6,529 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	13 領域のうち，　4 領域 15 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	
経験できる地域医療・診療連携	地域に根ざした医療（介護を含む）、病診・病院連携、訪問看護等などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会関連施設 日本消化器内視鏡学会指定指導施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構研修施設 など

千曲中央病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。昨今の情報通信技術は日々見張るものがあり、医局の各医師の机や外来・病棟診療のベッドサイドでもインターネット検索できるように院内 WiFi を設備してあります。現在デジタルライブラリーを構築中です。 •千曲中央病院の常勤医師として労務環境が保障されています。 •産業医を配置しメンタルストレスに適切に対処するためストレスチェック、身体的健康管理のための定期健康診断および特殊健康診断を行っています。 •ハラスメント委員会を設置し快適に働くことができる就業環境を確保しています。 •医師専用の駐車スペースを確保しています。 •事業所内に保育室を設置しています。
2)専門研修プログラムの環境	•指導医が 3 名在籍しています。 •医師臨床研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・全職員を対象に医療倫理・医療安全・感染対策・救命救急講習会を定期的に開催しています。専攻医に受講を義務付けそのための時間を確保します。 ・定期的に開催される研修施設群合同カンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（インターネットによるリモート参加） ・定期的に開催される地域参加型のカンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（インターネットによるリモート参加） ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC もしくは ICLS 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、腎臓、循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・呼吸器科、糖尿病内分泌代謝分野においては非常勤ながら信州大学の専門医・指導医の診療により多岐にわたる疾患を経験できます。 ・画像診断においては信州大学放射線診断部の診療支援により精緻な即時診断が得られるため臨床現場では質の高い診療ができます。
4)学術活動の環境	・日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会等（総会および地方会）に参加するとともに年数回の発表を行っています。 ・学会主催の市民公開講座の開催をしています。 ・大学との共同臨床研究を論文化しています。
指導責任者	宮林千春 【内科専攻医へのメッセージ】 長野県千曲市は高速道の分岐点（（更埴ジャンクション）を擁し、また JR中央線としなの鉄道の分岐点にも近く長野市、上田市、麻績村、筑北村、坂城町に隣接しています。千曲中央病院の医療圏の対象人口は千曲市民約 60,000 人に加え周辺地域約69,000人、合計 13 万人弱と捉えています。 他地域へのアクセスがよいということは地域住民の健康を守るに適したエリアに立地している病院であることに加え、専門医療を求めてより遠方の患者さんが通いやすいということです。このような背景を鑑み、肝疾患診療研究センターを立ち上げ、肝臓内科と肝胆膵外科と連携して診断治療を行っています。総合内科診療から専門診療、救急医療、高齢者医療、地域医療までも包括する全人的医療を実践できる内科医の育成を考えています。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会　指導医 3 名 日本内科学会　認定内科救急インストラクター1 名 日本内科学会 総合内科専門医 2 名、日本内科学会認定医 3 名 日本消化器病学会 専門医・指導医 3 名 日本消化器内視鏡学会　専門医・指導医 2 名 日本肝臓学会　専門医・指導医 2 名

	日本腎臓学会 専門医・指導医 1名日 本透析医学会 専門医・指導医 1 名日 本循環器学会 専門医 1 名 日本救急医学会　ICLS インストラクター1 名
外来・入院患者数	外来受受診者は月平均 約 5,650 名。 1 日平均　約 280 名、内科受診者数は 1 日約 160 名（うち 10%前後が紹介）。 入院病床は 180 床（一般病棟 88 床、回復期リハビリ 52 床、療養型病棟 40 床） 月平均入院患者総数 約 4,200 名。 一般病棟 88 床のうち内科入院患者数は約 35-40 名/日。
経験できる疾患群	・コモンディジースのみならず総合内科、消化器、腎臓、循環器および腹部救急のエキスパートが常勤しているので各専門的疾患も診療できます。 ・若者を中心に常住人口が増えている地域ですが、高齢患者を診療する機会も多く高齢者医療、高齢者救急も増えています。社会情勢により病診連携・病々連携を通じて看取りも含めた訪問診療も可能です。
経験できる技術・技能	・技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。ことに消化器領域においては画像診断、消化器内視鏡技術、インターベンション治療技術の習得も可能であり、さらに地域および関連の高度医療機関との連携により技術指導を受けることも可能です。 ・内科領域においてのチーム医療、外科とのチーム医療を習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・若者を中心に常住人口が増えている地域ですが、高齢患者を診療する機会も多く高齢者医療、高齢者救急も増えています。社会情勢により病診連携・病々連携を通じて看取りも含めた訪問診療も可能です。 ・市の委託をうけ市民健診業務、健康教育の啓蒙・健康講座開催、COVID-19 感染対策アドバイザリーボード、COVID-19 ワクチン接種はじめ予防接種等の地域貢献に寄与し市民病院的な役割を担っています。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本病院総合診療学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設

高山赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •常勤医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルスサポートチーム）があります。 •ハラスメントに対処する部署が院内に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2）専門研修プログラムの環境	•指導医は7名在籍しています. •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（内科部長），プログラム管理者（内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医），事務局代表者，内科Subspecialty分野の研修指導責任者（診療科科長）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2023年度実績1回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（飛騨地域連携の会，飛騨臨床医会，ひだ消化器病研究会，飛騨臨床懇話会，救急症例検討会）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します. •特別連携施設（飛騨市民病院）の専門研修では，電話や週1回の高山赤十字病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 3) 診療経験の環境	· カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます. ・倫理委員会を設置しています. ・専門研修に必要な剖検を行っています（実績：2022年度1体、2023年度2体）.
認定基準 4)学術活動の環境	•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています（2023年度実績3演題）.
指導責任者	堀　正和 【内科専攻医へのメッセージ】 地域医療の中心となる当院では，急性期から慢性期，そして在宅となるまでを一貫して主担当医として受け持つことができます．週1回は外来を担当していただきますので外来にて引き続き患者さんの治療を続けることができます．循環器科以外は一つの内科として診療を行っているのでSubspecialtyの指導医の指導を受けつつも多疾患をもつ患者さんを総合的に診療できます.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医7名 日本内科学会総合内科専門医5名、日本消化器病学会消化器専門医2名 日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医1名 日本血液学会血液専門医1名、日本腎臓学会専門医1名 日本リウマチ学会専門医1名
外来・入院患者数	外来患者16,790名（1ヶ月平均） 入院患者9,100名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会（関連）認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会関連認定施設

国民保険飛騨市民病院

1)専攻医の環境	・研修医室には自学のために必要な書籍、DVD を多数準備しており、これまで当院で研修した研修医からもその充実ぶりに高い評価を得ています。 ・インターネット環境が整った PC を一人に 1 台準備しています。Wi-Fiも使用可能です。 ・宿舎は当院から徒歩 3 分の場所にあり、所帯で住むことも可能な充分な広さがあります。病院前には大手スーパー、ドラッグストアがあり、日常生活に必要なものは全て徒歩圏内でそろえることが可能です。 ・女性専攻医も安心して勤務できるよう、更衣室、浴室、当直室が整備さています。
2)専門研修プログラムの環境	・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・富山大学総合診療部および連携施設とネット回線を用いたテレビカンファレンスを定期的（月 2 回程度）に行い、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	常勤医は少ないですが、非常勤の専門外来として富山大学より、総合内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病内科などの専門医が毎週来院しており、常に各専門医にコンサルト、最新知見を学ぶことが可能です。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会、同地方会、ひだ消化器病研究会などでの発表を積極的に推奨しています。
指導責任者	工藤 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 飛騨市民病院は常勤医が少ない状況ですが、飛騨地域の機関病院として、プライマリケアから救急診療まで幅広く対応しています。専門医療のみでなく、主担当医として、入院、治療、退院、その後の生活までを考えた地域医療包括ケアの実践による、全人的医療を学ぶことが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 1 名、日本プライマリケア学会指導医 2 名, 日本消化器病学会消化器専門医 1 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 1 名, 日本肝臓学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 4,363 名（1 ヶ月平均） 入院患者 81 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	プライマリケアとして、common な疾患から希な疾患まで、幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に消化器領域においては、内科・外科の垣根のない、より高度な知識・技術を習得することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、これからの高齢化社会に対応できる、地域に根ざした医療、病診・病院連携を経験できます
学会認定施設 （内科系）	なし

福井大学医学部附属病院

1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な机とインターネット環境があります．医学中央雑誌，UpToDate，および多くの海外ジャーナルが無料で閲覧できます. ・福井大学附属病院医員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります. ・ハラスメント委員会が福井大学に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
2)専門研修プログラムの環境	・本プログラムは，福井県の福井大学病院を基幹施設として，福井県医療圏・近隣医療圏をプログラムの守備範囲とし，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は3 年間（基幹施設 1 年間以上＋連携施設 1 年間以上）です. ・内科指導医が39名在籍しています. ・内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023年度実績2回，2023年度実績2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・JMECCインストラクターが常勤し、年1回開催しています. ・CPCを定期的に開催（2023年度実績 4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．剖検を実施（実績：2022年度19体, 2023年度20体）
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野(総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4)学術活動の環境	日本内科学会総会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発をしています.
指導責任者	夛田　浩（循環器内科教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 福井大学附属病院は、福井県内で唯一の特定機能病院であり、最先端の医療を提供する医療機関であるとともに、医学生や研修医の教育および研究の拠点でもあります。専門医研修においては、全内科領域の指導医が揃い、豊富な症例も確保されているため、質の高い研修を実施することができます。さらに、福井県内および近隣の病院との連携を強化し、医療従事者の育成や地域医療の充実に向けた協力体制が整っています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医39名，日本内科学会総合内科専門医49名 日本消化器病学会消化器専門医17名，日本循環器学会循環器専門医11名, 日本内分泌学会専門医3名，日本糖尿病学会専門医5名, 日本腎臓病学会専門医8名，日本呼吸器学会呼吸器専門医9名, 日本血液学会血液専門医11名，日本神経学会神経内科専門医13名, 日本アレルギー学会専門医（内科）2名，日本リウマチ学会専門医3名, 日本感染症学会専門医3名，日本老年医学会専門医2名, 日本肝臓学会専門医16名ほか
外来・入院患者数	外来患者　7427名（1ヶ月平均） 入院患者 394 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	カリキュラム（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定専門医制度教育施設 日本超音波医学会認定専門医研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本救急医学会専門医研修施設 日本東洋医学会研修指摘病院 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

阪和記念病院

1)専攻医の環境	・ 阪和記念病院任期付常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ 研修に必要なインターネット環境があります。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課)があります。 ・ ハラスメント相談窓口が総務課に整備されています。 ・ 安心して勤務できる更衣室、当直室、シャワー室、コンビニを備えています。 ・ 近隣にグループ直轄の保育所を設営しており、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が4名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、専攻医研修の管理を行っています。 ・ 医療安全、感染対策講習会等を定期的に開催しています。 ・ CPCを大阪公立大学病理学教室と連携して開催し、専攻医が参加するための時間的余裕を与えています。
3)診療経験の環境	内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	矢田　豊 【内科専攻医へのメッセージ】 阪和記念病院は大阪市南部の住吉区（人口15万人）の住宅密集地にあり、住吉区東住吉区、平野区、住之江区周辺地域のクリニックや医療機関と密に連携しながら、循環器内科、脳神経外科をはじめ多くの急性期疾患を受け入れています。循環器内科では PCI（ステント、ロータブレーター）、消化器内科では超音波内視鏡、ダブルバルーンおよびカプセル内視鏡も用いて全ての内視鏡検査・治療、腹部エコー下処置（PTCDなど）、 TACE、（人工胸腹水下）ラジオ波治療など幅広い専門治療を施行しています。また、大阪大学、大阪公立大学、大阪医科薬科大学とも連携しており、多くの医師との交流により、内科専門医のみならず救急医療、地域医療をも包括する全人的医療を実践できる専攻医研修が可能な施設です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 5名、日本内科学会指導医 4名、 日本消化器病学会専門医7名・指導医 2名、 日本消化器内視鏡学会専門医 6名・指導医 2名、 日本肝臓学会専門医 6名・指導医 1名、日本循環器学会循環器専門医 2名、 日本がん治療認定医機構認定医　4名・暫定指導医 1名、 日本超音波医学会専門医 2名・指導医 2名、日本消化管学会胃腸科認定医 4名、 日本カプセル内視鏡学会認定医 1名、日本神経学会神経内科専門医 1名、 心血管インターベンション治療学会専門医 1名、 日本リハビリテーション医学会専門医　1名、日本リウマチ学会専門医　1名
外来・入院患者数	外来患者　6,159 名（1 ヶ月平均）　入院患者　12,082 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域にわたる疾患 群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・ 技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 ・ Subspecialtyにおいても、より高度な専門技術を習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設　など

大阪市立総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型臨床研修病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪市民病院機構職員（有期雇用職員）として労務環境が保障されています。 ・大阪市民病院機構としてメンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、医局・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 53 名在籍しています。 ・ともに総合内科専門医かつ指導医である、内科プログラム管理委員会（統括責任者：副院長）、プログラム管理者（診療部長）が各研修施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と事務局を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会（2022 年度実績 7 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC（2023 年度実績 5 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスである都島メディカルカンファレンス（年 2 回）､キャンサーボード（年 6 回）、学術講演会（年 1 回）、DMnet one 研究会（年 5 回）等を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC（2021 年度開催実績 2 回：受講者 9名、2022 年度開催実績 2 回：受講者 12 名、2023 年度開催実績 1 回：受講者 7 名）の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科専門研修管理委員会と事務局は日本専門医機構による施設実地調査に対応します。 ・特別連携施設（大阪市立弘済院附属病院）の専門研修では、電話・大阪市立総合医療センターでの面談（週 1 回）・カンファレンス等により指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうち、ほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます(上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 6 体、2022 年度実績 9 体、2023 年度実績 14体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催 () しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催)しています ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多数の学会発をしています。

指導責任者	小西　啓夫 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪市立総合医療センターは、大阪市の中心的な急性期病院であり大阪市医療圏・豊能医療圏にある連携施設・特別連携施設と連携し内科専門研修を行い、 必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景や療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 53 名（2023 年度） 日本内科学会総合内科専門医 50 名、日本消化器病学会専門医 12 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 8 名、 日本内分泌学会専門医（内科）7 名、日本腎臓病学会専門医 7 名、 日本糖尿病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 6 名、 日本血液学会専門医 5 名、日本神経学会専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 6 名ほか（2023 年度）
外来・入院患者数	内科系外来患者合計 174,097 名（年間） 内科系入院合計 8,542 名（年間）内科系のみ（2023 年度）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきなら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携等も経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設等 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本てんかん学会てんかん専門医制度認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設栄養サポートチーム専門療法士修練施設 日本感染症学会認定研修施設　など

株式会社麻生　飯塚病院

1)専攻医の環境	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN，Wi-Fi）があります． ● 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります．医務室には産業医および保健師が常駐しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ● 敷地内に 24 時間対応院内託児所，隣接する施設に病児保育室があり，利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	● 指導医は 43 名在籍しています。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する，内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年実績 医療倫理 6 回医療安全 7 回，感染対策 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催（2023 年実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を 与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では，症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います．なお，研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症数を診療しています。 ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます ● 専門研修に必要な剖検を行っています。
4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ● 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています。 ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	増本　陽秀 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて，プライマリ・ケアから高度急性期医療，地都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます．米国ピッツバーグ大学の教育専門医と，6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た，教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います． 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です．将来のキャリアパスが決定している方，していない方，いずれに対しても価値のある研修を行います。

指導医数 （常勤医） ［2024 年度］	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 53 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 8 名、日本感染症学会専門医 4 名、ほか
外来・入院患者数 ［2023 年度実績］	総外来患者 23,400 名　総入院患者 21,255 名 内科外来患者数 7,810 名　内科入院患者数 12,145 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・嶺田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設　など

久美愛厚生病院

1)専攻医の環境	**初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。** **久美愛厚生病院常勤医師として労務環境が保障されています。** **メンタルストレスに適切に対処する部署（企画総務課）があります。** **ハラスメントに対する窓口を設置し、男女別の担当者を配置しています。** **女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。** 院内に保育所「あいりすルームたかやま」があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	**指導医が6名在籍しています。** **内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。** **医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。** ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌、腎臓、代謝、神経、血液については外来診療の研修が可能です。
4)学術活動の環境	**日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています**
指導責任者	横山敏之 【内科専攻医へのメッセージ】 **当院は、飛騨地域において急性期医療から慢性期にいたるまで、また、予防医療についても役割を担っており、地域に根付いた全人的な内科診療を経験することができます。地域包括ケア病棟や療養病床もあり、幅広い医療の研修が可能です。** 内科は専門で細分化されていません。コモンな疾患から希な疾患まで、幅広く診療できるように優先的に主治医になっていただきます。入院患者の主治医になっていただき、必要に応じて副主治医として各専門科の指導医が担当します。外来は、初診外来を担当していただきます。再診枠については、６カ月以下の研修の場合は曜日を固定せず、専攻医の希望の日時に予約を入れて診察します。へき地診療所の診察や巡回検診の診察に出張していただく場合があります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　　6名 日本内科学会総合内科専門医　　7名 日本消化器病学会専門医　　2名 日本循環器学会専門医　　3名 日本呼吸器学会専門医　　2名 日本消化器内視鏡学会専門医　　2名 日本感染症学会専門医　　1名 日本プライマリケア学会専門医　　3名,
外来・入院患者数	外来患者　　45519名（1ヶ月平均3793名） 入院患者 62008名（1ヶ月平均5167名）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。また、付随する緩和ケア治療、終末期医療についても経験できます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。住民健診や保健指導など地域の健康維持に関わる活動ができます。
学会認定施設 （内科系）	**日本内科学会認定制度教育関連病院** **日本消化器病学会認定施設** **日本呼吸器学会関連施設** 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設